京城日報

二十五日夕刊 (朝夕刊併せて八頁)

定價 △一部金二錢五厘△一ケ月金五十錢△郵稅一ケ月金二十錢

廣告料金 △五號活字一行金六十錢

京城太平町通一丁目 京城日報社 電話編輯局長三四五番 營業局長三二六番 振替貯金口座京城三〇〇番

發行兼編輯人 印刷人 小川三之助

○戰爭目的改訂

聯合國に通牒を發す

過激派は聯合國に對し從來の戰爭目的を改訂せん事を要求し若し何等回答を得ざるに於ては露國の單獨講和を是認せるものと認むる旨の通牒を發したり(露都電報)

○講和談判と休戰

第二回露都勞兵會議にて全交戰國民に向ひ講和談判を速かに締結し三ケ月間の休戰を締結する事に決し其の旨全交戰國民に提議する處ありたり(露都電報)

○國務委員會組織

過激派

過激派は左の顔觸にて國務委員會を組織したり(露都電報)

▲總裁 レーニン▲內務 ルイコフ▲農務 ミリユチン▲勞働 ミヤブニロフ▲商工 ノギン▲文部 ルナチャルスキー▲大藏 スクウオルツオフ▲外務 ツロツキー▲司法 オブボケ▲糧食 オドロウイツチ▲遞信 アウエロフ

○レ內閣軍隊減少

露國無線電信=レーニン內閣は宣言して曰く內閣は軍隊の數を減少するに決し先づ第一着手として千八百八十九年兵を卽時解隊す可しと(倫敦電報)

○諸建物破壞さる

六日間連續せる砲火の爲め電話局、アレキサンドル宮、ウスペンスキー大伽藍等は破壞され政府と軍事革命派との間に和議締結されたり(莫斯科電報)

○獨少年兵役召集

獨逸は千九百二十年に召集す可き本年十七歳の少年を兵役に召集せり之れ獨逸兵力の不足を示すものなり(倫敦電報)

○南北講和會議開會

南方の條件として官吏の任命不干渉

段總理辭職と共に南北講和會議南京にて開會さる可し南方代表者唐紹儀氏、王正廷氏及び湖北、湖南、廣西代表者は既に出發せり南方の條件の主なるものは南方官吏の任命に北方の干渉を許さずと云ふにあり(北京特電)

○段祺瑞氏渡日說

段祺瑞氏は天津に赴きたる上日本に渡るべしとの說あり(北京特電)

○戰時利得稅擴大

二十四日大阪入電に依れば米政府は戰時利得稅を擴大し十二月一日以降紐育市場定期取引の賣値百弗に對し二仙を課稅すべしと(大阪特電)

○原總裁園侯訪問

原政友會總裁は二十四日入洛西園寺侯を訪ひ同夜歸東の途に就たり(京都特電)

○佐々木長官歸任

釜山來電 上京中の佐々木慶南道長官は二十五日午前十時半發列車にて釜山任地へ歸任せり(釜山特電)

◎內地資金移動

銀行手形交換高

十月中に於ける東京外大阪、神戶、京都、橫濱、名古屋、廣島、關門、金澤、函館、小樽の十組合及び代理交換銀行諸勘定尻合計を前月に比較するに預金は一億五千四百三十二萬一千三百四十四圓を增加して二十七億五千八百八十三萬六千百七十二圓となり貸出は三千四百六十四萬五千五十五圓を增加して廿五億二千八百九十二萬七千七百六十四圓となり大勢に於て全國資金移動狀態の平調なるを思はしめ所有々價證券は三百十萬五千九百六十八圓を減じて五億一千二百九十萬二千二百十七圓となり而して銀行手許金も亦昨今の緩漫狀況を遺憾なく發揮し一躍二千三百八十六萬九千百八十一圓を激增して二億七百二十三萬六千四百八十二圓となれるが是等諸勘定尻を前年同期卽ち前年中に於ける財界最盛時に比較すれば倘且つ左表の如く拂込資本金に於て五千五百四十九萬七千三百四十五圓を積立金に於て千四百六十一萬二千五百五十一圓を預金に於て九億一千六百八十六萬四十七圓を貸出に於て六億六千九百七十三萬二千七百圓を所有々價證券に於て一億二千四百五十萬四百八十圓を手許金に於て三千三百八十五萬九千五百四圓を何れも增加したり

	十月中 千圓	前年同期 千圓	比較增
拂込資本金	三二一、八〇二	二六六、三〇五	五五、四九七
積立金	一三〇、八六九	一一六、二五七	一四、六一二
預金	二、七五八、八三六	一、八四一、九七六	九一六、八六〇
貸出	二、五二八、九二七	一、八五九、一九五	六六九、七三二
有價證券	五一二、九〇二	三八八、四〇二	一二四、五〇〇
金銀在高	二〇七、二三六	一七三、三七七	三三、八五九

◎問島市場恐慌

問島局子街なる支那人錢號は本春來銀貨が暴落して日貨二十五錢內外を唱へし時多額の思惑買を爲し奇利を博せんとせしも其後露貨は益々暴落して昨今十二三錢を唱へ何れ下落の趨勢にあるより遂に破況を來し同地の二大錢號なる裕豐錢號、廣益錢號先づ閉店するの悲運に陷り尙ほ他の大小錢舗も倒產するより市場悄然として商況頗る不振に陷り邦商も恐慌警戒策を執るに至れり(淸津)

◎淸會線と間島

淸會線鐵道工事は豫定の通り竣工を告げ二十一日より運轉を開始し二十五日開通式擧行茲に間島との交通聯絡上一新生面を開く事となりたるが差し當り輸出入界は益々多忙を加へ是れにより龍井村を中心とする物資の集散範圍を擴大せしめ會寧經路に依る輸出入は從來の比にあらざるべきは勿論にして地價昂騰を促進すべきを疑はず而して右鐵道開通と共に總じて從來間島の地價が低廉なりしは一に交通不便に職由せしものにて交通聯絡上一新生面を拓くとせば地價の昂騰は免れ難き趨勢なりとすべく同鐵道開通後の間島は總てに於て經濟的向上を促進するに至るべし(間島)

◎白隱元廻着狀況

淸津

淸津港に於ける本年白隱元出廻狀況は前年に勝るの活況にて一時英國に於ける糧食調節令及び歐洲航路船腹不足等の原因にて其前途を悲觀されしも全く杞憂に過ぎずして四十圓內外を唱ふるに至りしより商人は之が買占めに狂奔するの有樣なるが本年は前年の好況なりしに鑑み一般農家の栽培反別增加し隨つて收穫も增加せる事とて出廻り旺盛にして既に本月中旬迄に約二萬石に達せり而して本月上旬より內地に發送されたるもの約米國に於ける食料品調節令入電の爲め相場は五六圓方下落せるを以て當方面との相場引合ず商人は何れも買出中止の姿なるも今後相場が幾分持直すに於ては更に活況を呈するに至るべし而して本年咸北及び間島方面に於ける本品生產額は約七萬石と稱せられあるが相場次第にて種子を除ける其大部分は搬出せられ得べく北鮮間島の各市場は同品出廻りに依りて大に活況を呈しつゝあり(淸津)

◎極東露領在留の邦人

露國人は日本に信賴して居る

旅順要塞司令官 白井陸軍中將談

滿洲に於ける我國の經濟的發展は顯著なるもので、尙ほ此の勢を以て步武を進めねばならぬ其れにしても、平和の事業は、安寧と秩序とを維持することが

△第一の要件で 千百年の歲月を積むで築き上げた文明でも安寧秩序が保たれなければ、一朝にして破壞される例は古來枚擧に遑なき程である、現して南滿に於ける我國の勢力は日尙淺く、根底も亦甚だ鞏固とは云へない、故に我經濟的事業は些々たる動亂にも非常なる打擊を蒙むるであらうと思はる、然るに兩隣の騷がしきにも拘らず、南滿に於ける我勢力圈內は平穩無事であるのは、寔に欣ばしい次第だ、尤も先頃は吉林督軍の更迭事件で一寸騷だ樣な

△格別の事が無くて結構であつた、彼の問題も全然解決が著いたか什うか分らぬが、向後大して氣遣ふ程の事も起りはすまいが、唯困るのは露國の現狀だ、革命の結落に對して然まで憂慮するに及ぶまいと思ふが……何故なれば「露國の革命は、佛國の革命と違ひ、少數者の理想が、多數者の賛同に依りて實現されたのであつて、佛國革命當時の如く、國民大多數の意思が、政治的革命と成つて現はれたのではない、露國の民度は、政治的

△革命を起す程 に昂上してゐない、殊に露國民は頗る柔順なる性質を備へてゐるから、國民多數の意思が革命に在るのではあるまい、之れは少數の理想家が、木に餅の實る樣なことを云つて煽てるので、ツイ妄動したのである例へば一兵卒が、昨日迄は絕對服從を强いられた上長官に對して『オイ同胞』とやつても可い時代に成つたので『之れは面白い』と思ふのも無理はないが、倂て過激派とやらの天下と成つたとして、總ての兵政の機關は何うしても組織的に編成されねばならぬ、爾うすれば自ら

△上下の階級が 出で來たるもので、其處で現に妄動してゐる連中も、何だ斯樣では詰らないといふ考へが起る、又土地にしても果して平等に分配され得るか否やが第一の疑問、縱し夫れが出來ても、各自の勤怠、其他の理由で貧富の差も生ずるに極つてゐる、此方でも亦、何だ斯樣では詰らないといふ考へが起る、勞働者、兵士、農民等が何れも斯る考への起つた時が、卽ち露國の鎮靜に歸する時で、其の期の到來するのも餘り永いことはあるまい、併しながら、露國內の秩序回復を待つ間の西伯利亞から北滿洲邊に在留する

△我邦人の安危 如何は充分に政府でも注意されてゐることと信ずる、予は本月八日旅順出發前、都督府から哈爾賓に派遣されてゐる一武官の旅順に歸來せるに會つたが、其談に依れば同地の秩序が紊れてゐるには相違ないが世間に取沙汰される程の危險は感じないと云つてゐた、而して赴任の際は、旅順に住つてゐた妻子を引具して行つた、之を以て見れば白衛强盜が市中を橫行するなどの報道は俄かに信じられない、聞けば東淸鐵道沿線勞兵會や、土地の重立つ者等は、萬一此際

△下手な眞似を やつた爲めに、日本が滿洲から兵を繰出したら什うする、なぞと相戒めて鄰人を侵さない樣にしてゐるさうだ大分恐がつてゐると見える、同時に大に信賴もしてゐるらしい、相應資產もあつて眞面目な職業に從事してゐる者は、日本が好意上兵を派して、安寧秩序を維持して呉れさうなものだと、切に翹望してゐるらしい。

◎材料貨車留置料

請負人託送工事材料積貨車に對する留置料又は違約金は一般貨物の規定に依り之を徵收すべきものに付當局者は其の取扱に注意を要すべしと尙其の計算方は普通列車にて輸送する場合は積卸時間の通知方料金の計算方は總て營業貨物と同一に六時間毎に徵收すべきものとし又工事用臨時列車にて輸送する場合は工事請負人の都合(人夫の不足等)に依り積込又は取卸を遲延したる爲め列車の出發を遲延せしめたるときは所定出發時刻より現出發時刻迄の時間に對し貨車留置料を收受すべく倘工事請負人の都合に依り列車の運轉を取消したるときは列車の始發驛に貨車を準備したる時刻より請負人が運轉の取消を申出たる時刻迄の時間に對し違約金を收受すべきも貨車の準備をせざるに先ち運轉の取消を申出たる場合は違約金を申受けず

◎鐵道倉庫營業開始

滿鐵京城管理局にては十二月一日より湖南線江景、裡里驛同月廿五日より同線井邑及び長城驛に於て倉庫營業を開始する事となれり

◎大阪財界便り

△操短特別取扱 紡績操短決議中特別の事情ある會社の操短步合或は除外は委員會の決定に一任せられたるが紡織兼營會社は天滿莫大小松岡大阪織物浪速紀陽內海キセリコー八社ありて其中自給會社の莫大小紀陽等を除外し其他の會社は織機臺數と紡錘運轉錘數との消費割合を比較して供給の餘裕ある錘數に對して一割の操短を實施せしむべくこれ等の計算は的確に調査したる上決定を見るに至るべく其他三千錘以下の四日市島田外一社は操短より除外せらるべしと

△綿絲輸出減少 輸出綿絲は本月中旬に入り相場二百八十圓內外となり海外相場と出合はざるため減少し上旬より六千六百四十五梱を減じて一萬三千五百四十三梱となり本年一月以降の輸出高は四十萬五千三百十一梱にして昨年同期に比し六萬四千餘梱の減少を示せり

△昨今の砂糖界 月初めに於て分蜜糖現物は十八圓三十錢と低落し市況は引續き不況の唱へなりしが端境期の爲め在荷の僅少よりして逐次引締り昨今十九圓十九錢と安値より八十九錢方の大反撥を演ずるに至れり市況頓に活況を呈せしも大勢は瓜哇糖相場の前途に於ける安見込よりして年末より明春にかけて不況の成行を辿るべく目下の好況は端境期による一時的現象ならんかと觀測されつゝあり(大阪支局)

◎三井釜山出張所主任轉任

三井物產釜山出張所主任小川貫氏は今回神戶支店へ榮轉し來月中頃赴任すべく後任は神戶支店の小林一郎氏なりと(釜山)

◎若松府尹の記念品贈呈

若松釜山府尹は釜山府を代表し今回撤廢することゝ爲りたる釜山守備隊を二十五日訪問し記念品として李王職美術品製作所製造の水入を隊員一同に贈呈せり(釜山)

◎本田博士講演

水原模範場長本田農學博士は廿四日午前五時四十分着にて來釜直に東萊郡外一府三郡品評會場に臨み同出品物を觀覽の上同農產外其他に付一般有益なる講演をなせり(釜山)

◎國分長官歸任

司法官會議列席の爲東上中なりし國分司法部長官は二十五日午後九時南大門驛着歸任す

◎連帶線驛名改稱

來る十二月一日より東海道本線『灘』停車場を『東灘』と改稱すべしと

◎輕鐵中間成績

本月中旬に於ける朝鮮輕鐵大邱河陽間運轉成績は乘客五百四十六人小手荷物二千九百二十八斤貨物三十三噸收入總額八百四十六圓五十六錢なりと(大邱)

◎府稅徵收狀況

本月末日の納期限たる京城府々稅第二期分に就て二十日現在徵收狀況を聞くに營業稅に於て調定額三萬九千八百二十五圓に對し納入濟額五千八百十二圓此收入步合一割二分二厘雜種稅に於て調定額一萬一千三百八十八圓に對する納入濟額一千三百七十六圓此收入步合一割七厘にして之を前年同期に於ける二十日現在納入步合營業稅の八步五厘雜種稅の五分七厘に比較し頗る好成績と云ふを得べきも已に納期限迄旬日を餘すに過ぎざる今日なれば當局に於ては未納者全部に對し納稅注意書を約束郵便にて配布し納稅方を慫慂し居れるを以つて相當の成績を擧げ得べく倘該注意書を受掌せる向は此際至急納入されたしと

◎三郡聯合品評會

慶南道

釜山府、東萊郡外三郡聯合品評會は二十日より一週間釜山商業學校內に於て開會し三郡の重要物產玄米、小麥、大豆、水產物等を始めとして出品點數二千四百餘點に達し褒賞授與式は二十七日にして一等十點二等二十點三等四十點[illegible]

◎洪州雜信

△洪州寺新築 洪州寺院は本堂庫裡共外廊本道長官初め地方有志の贊同により工費約二千百圓を以て工事著手中なる同寺院は成り取急ぎ施工中なるを以て本月末迄に竣工するに至るべし▲東門修繕 古蹟保存上內鮮人の寄附金三百五十圓を以て原形を損せざる如く修繕工事に著手せり本月中落成の見込なり▲葛山公立普通學校落成式 十一月二十四日開校並落成式執行官民多數を招待時恰かも上村市場の落成式あり餘興として煙花、妓生手踊、舞踏等を催うし同地未曾有の盛況を呈したり因に葛山は有名なる安東金氏一門の構居するところなり

人事消息

▲碎林啓太郎氏(咸興炭鑛株式會社長) 二十五日午前入京旅館へ

▲山口賢一氏(旅順要港部參謀) 二十五日午前入京

▲賀田金三郎氏 二十五日京城通過一山へ

▲中村辰五郎氏 二十五日午前內地へ

▲原田工學博士 二十五日午前全州へ

▲菅木晃禎經理長 二十四日午後

▲山田信太郎氏(廣島縣議士) 二十四日午後入京朝鮮旅館へ

▲寺島才二郎氏(警務部參議) 二十四日午後群山より歸京

▲梶川鐵三郎氏(東京實業家) 廿五日朝退京

▲今福馨氏(京都帝大文科教授) 同入京不知火へ

▲田中玄黃氏(平壤高等普通學校長) 二十五日夜入京

▲藤本幸太郎氏(大田中學校主任) 二十五日夜退京の豫定

▲朝鮮總督府制服▼(判任官用)

▲特ノ一(サーヂドスキン) 金四拾五圓也

▲特ノ二(ドスキン) 金四拾貳圓也

▲甲(メルトン黑紺一本綾) 金參拾參圓也

▲乙(メルトン黑紺) 金貳拾八圓也

▲奏任官制服及外套は貳圓增の事

▲『將校マント』は貳拾圓より四拾圓迄

▲地方は御申越次第見本帖と寸法取圖解送付可申上候

送料 鮮內二十錢外五十錢

京城大平通一丁目 電話番京城三〇〇番 京城日報代理部

債權法大綱

法學博士岡松參太郎先生序 法學博士石坂音四郎先生著

發行所 有斐閣 振替東京三七〇

故博士の遺著出づ

布製全一冊 上製金二圓四十錢 並製正價金二圓 送料內地金十二錢

本書は私法の大家石坂博士が[illegible]

室內衛生と梅か香

鳩居堂の梅か香を炷けば假令襖、障子は建て詰められても室內の空氣は十二分に消毒淨化されます

一貝四錢 壹入廿錢 御徳用竹筒入五十錢 外數種 內地送料入

宮內省御用達 熊谷鳩居堂 京都寺町アリカヘ 大阪六三八 支店 東京銀座尾張町

六段 雁金準一講述 和紙上製 定價金七十五錢 郵稅金四錢

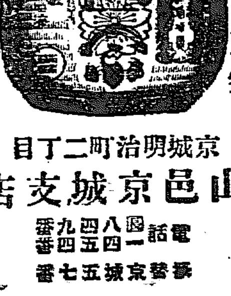
互先定石詳解

圍碁定石は初心者の必ず學ばざるべからざる階梯にして本書は至高至難なるものなり之を講說せんは中々容易の業にあらず[illegible]

發行所 東京市京橋區南鍋町一ノ十三 振替口座東京一〇二九七番 圍碁雜誌社

比較は最良の撰擇法なり!!

サクラ正宗 サクラ正宗



京城明治町二丁目 山邑京城支店 電話 四八一四 九五四番 振替京城五七番

十一月一日現行

大ニコ〱の白井將軍
曰く「滿洲は活氣横溢、滿鐵沿線の發展は實に盛んなものだ」

〔支那江州に於て擧行されたる大演習を陪観して歸任の途次、二十四日夜入京したる旅順要塞司令官白井中將を水原驛に迎ふ、將軍の談に曰く〕

吾輩は、大演習陪観の爲め、本月八日旅順を出發して内地に歸つたが、演習前後に於ける旅順の氣温は、所謂三寒四温とやらの其の暖かな日取りに廻り合つてゐたのか話る

▽小春の樣な 日和であつた、ところが乗船が神戸に著いて、上陸して見ると寒氣が強いので吃驚した、演習地も同樣で、朝鮮から來て居られた將軍連も朝鮮より寒いと云つてゐられたが、成程朝鮮も暖かいね、吾輩は昨年の八月大邱から旅順へ赴任したのだが早いもので

▽疾くに一年 を經過した、大邱の旅團司令部は來年龍山へ引揚げることに成つてゐたのだが、案外早く兵營工事の進捗したので、兎も角も引揚げることが出來れば、新兵教育の上にも其方が好都合なので引揚げの期を早めたものらしい、滿洲の狀況は平穩で而して活氣が横溢してゐる、旅順は土地柄とて

▽何の變化も ないが大連に出て見ると、其の殷賑の狀は目醒しいものである、之れは滿洲に於ける諸工業の勃興、其他各種の事業が内地人を誘致するからで滿鐵沿線の發展は實に盛んなものだ、吉林の方では一寸人騒がせをやつたが、夫れも一先づ鎭まつたとあれば、他に何等の憂患も無い譯で即ち吾輩が、平穩で活氣横溢してゐると云つたのは此事だ、夫れに引かへて

▽支那は今尚 騒いでゐろし、露國は蜂の巢を衝き落した樣な混亂を續けてゐる、實に氣の毒に堪へないが其中には何とか納まりがつくだらう……と將軍は言葉を切つて瞑目一番する、記者が、京城に御滞在に成りますかと問へば將軍は、吾輩の娘を、先頃總督府の田中といふ事務官に嫁がせたが未だ婿に會つたことが無いので、此機會に立寄つて挨拶をする積りだ、或は二三泊するかも知れないとある、見る毎に

▽希臘の塑像 を思ひ出さるゝ將軍の、謹嚴し切つた顏面筋が、[illegible]分解むで、兎もすれば微笑が口邊に洩ふ、汽車が永登浦に着くと、愛婿田中事務官夫妻が、打連れて車室に入つて來る、將軍は「オ、こ」と許り、嬉しさうに起つて迎へる、夫からはモウ樂しさうな將軍の話聲が車室を賑はす、其談話の内に愉快な一插話があつた、將軍が「孫等の入つた風呂が二つあるから、大きい方は[illegible]に殘して置いて、小さい方はお前の方へ持つて行から」と云へば、愛孫田中富人君は「アレ大きい方を頂きます」と云ふ、將軍は「ヨシ夫れでも可いがれハヽヽ」と[illegible]の孫は解つ放し、手に冬だから、將軍の乗れる車室は春の樣であつた

●飛行將校制裁を受けん

京都にて低空飛行を爲し機上より萬亭の阪口かの子に宛てたる名刺を投下せし中山中尉は相當の制裁を加へらる可し目下謹愼中なり（京都特電）

●漁夫五名漂流

江原道杆城郡土城面滿洞里呂煥(三七)外四名は五石積みの漁船にて同里の沖合に出漁中十一月四日午前五時頃强風波に襲はれて押し流され二日餘り漂流して六日午後發見救助されしが内一名は溺死せりと損害約百五十圓位なりと

●虎兒二頭を捕獲すべく
虎狩隊の追跡

征虎軍第二班は虎兒二頭を追跡し其德山の二尺餘の積雪を蹴立てゝ目下大兎里の奥二里の邊にあり作戰本部の命により右虎兒は成る可く生捕にす可く陷穽其他の方法を設けつゝあり第一班は新浦面の雪

圖 金剛山特有の 巖と雪と
▼徹底的に觀察した― 江亭畫伯の繪

金剛山探勝を終へて本月上旬歸京せる東京美術學校教授藤井江亭畫伯は歸來直ちに黄島谷の邊りなる白水松秀庵の一室にありて興趣に任せ健筆を揮ひつゝあり有志の勸めにより近く畫會を催す由なるが其の發起人の一人なる總督府總務課長工藤壯平氏は親しく同畫伯の許に接したる感想を語りて曰く

朝鮮に來た畫家の内で金剛山を觀た人は隨分尠なくないやうだが、藤井江亭畫伯の如く徹底的に金剛山を觀察しこれを寫して來た人は殆んどあるまいと私は信ずる、畫伯は自ら最う二三度行つて見なければ金剛山といふものを知り悉すことは出來ないといつてゐるが

◆しかも今回の短日時の探險で可成り組織立つた方法で學問的の研究をして來たやうである、畫伯の説によると金剛山の實體を究めようとするには何よりも先づ金剛山特有の巖石を知らなければならぬといふところから、山中にあつては樹を見るより水を眺めるより赤色を稽へるよりも盛んに石の研究に沒頭したさうである、畫伯は奇態な巖石を幾ら見ても時日を經れば自然にその印象を失なつてしまふから形を殘して置ねばならぬといふので

◆寫眞機を携帶して撮影の出來る巖石は悉くカメラに收め光線の工合なにかで寫眞に撮れない箇所は一々寫生して形を取つて來た、二十打から持つて行つた乾板が全部種々樣々な巖石の形態を印してゐるといふのも奇である、畫伯は亦是まで初心の人が奇妙な巖を描くのを見たり自分でも懸崖などを描いてこんな巖石が實際にあるものかなどと思つたことがあつたが今度金剛山へ行つて見て自分達が想像以上であることを曉つたと言つてゐた

◆單に巖石のみでなく溪の狀態やそれに伴つて起る山獄の時間の變化なども可なり緻密に調べて來たやうだが

これは教職にある爲め教授上の參考となる點が多いからだらうが萬事が恁ういふ風で徹底的の觀方をしてゐる上に、畫伯は殆んど天才と稱してもいゝ位の奔放自在、併せて力強い運筆の巧致を具へてゐる、其の豪宕不羈な雄勁な筆力は金剛山を寫すには最も適してゐると言つてよく

◆私は畫伯の畫室を訪うてその作品を度々見たが吾々が常に欲して得られない金剛山の雄壯な景趣が一線を劃しても、そこに多くの意味を表はす老練な手法によつて畫面に活躍してゐるを感じた、畫伯は以前川端玉章翁に就て四條派の繪を學んだ關係からか線といふ事に重きをおいて

其構圖とか配色とかいふ事には多く意を用ゐてゐないやうな風が見ゆる、畫伯は近年文展といひ院展といひ日本畫の傾向が次第に西洋畫に接近してゆくやうに見ゆるが

◆西洋畫には西洋畫の特長があり東洋畫には東洋畫の特長があつて各々兩立したものである然るに東洋畫が徒らに寫生風を追ふて趣る結果和洋折衷の如き繪となつて純東洋畫たるの生命を失なひつゝあるのは考へものといはねばならぬ、素より美術には洋の東西はないが東洋畫西洋畫を分けるには毫も差閊へはないのである、此處の區劃を明かにすればいゝのである、といふやうな意見を持つてゐるから自然さういふ閃めきが繪の上に現はれてゐるのだと思ふ

藤井畫伯と同畫伯作の金剛山風景

中に豹の足跡を發見して今利源嶺川南郡の境に在り征虎軍は二十六日成興發新昌に上陸して六里の道を馬車にて北靑に至り一泊の上翌二十七日は一里半の山中にて狩立てを見物し希望に依り砲手と共に奥山に分け入る可し（成興特電）

●豆滿江の結氷
例年より早し

北鮮地方は本年寒氣の來る事早く國境方面の如き十月下旬より本月上旬に及びて數度の降雪あり寒氣酷烈なりしが殊に本月五六日頃より一層嚴しく之れが爲め豆滿江は結氷を始め豆滿江と渾春河と合する龍洞附近の如きは豆滿江渾春河共全部結氷し人馬の交通可能なるに至れり、斯く全部の結氷を見るは例年十二月に入つての事にて本年の如く十一月初旬に斯る現象を見たるは近年稀有の事なり（淸津）

●難波船の漂著

咸北鏡城郡北面羅里洞雉山海岸と玄圃海岸へ去る九日朝二隻の漁船漂著したり雉山海岸への船は江原道通川郡水明面古堤里朱龍伊(三二)所有船にして同人は該船に金將通(三〇)朴德珍(三二)金達部(三〇)の三名と共に乘込み二日通川郡鉛卵浦島沖合にて大口魚の漁獲中三日午前十時西北の强風に吹流され前記海岸に漂著したるものなりと乘組員は何れも無事なりしも所持金皆無なりしを以つて同地警察署にては漁業組合長片岡吉兵衞氏と協議し片岡氏が旅費を立替へ原籍地に送還したりと、又玄圃海岸への分は江原道杆城郡土城面橋岩里李在天の所有船にして同人は李俊萬(二十)鄭德伯(五八)朴鳳學(三)裵學申(三十)李有根(一九)等と同乘し同地椿岩岬沖合にて明太魚漁獲中西北の强風に吹かれて前記海岸に漂著したるものゝ由にて何れも身體には異狀なく旅費を取寄せ汽船叢德丸にて原籍地に歸還したりと

●漁夫七名を救ふ

江原道通川郡通川面金南里にて去る十五日大颶風襲來し金蘭里鄭人所有の一漁船が出漁中俄かの大時化に會して難破し怒濤の間に浮きつ沈みつ只一本の綱を纜に縋つて命を保ち七人の漁夫漂流中を見て同里の香椎漁場は直ちに救助船を仕立て辛くも件の七名を救助せり

●對岸馬賊の跳梁

十月二十六日銃器を携帶せる馬賊二十名對岸輯安縣神和堡爬寶山居住支那人廣德方に闖入し廣を殺害し家族二名に重傷を負はせ貨幣百餘圓を掠奪逃走せしが急報に接し外岔溝巡防隊及び巡警局は直ちに若干の討伐隊を出動追跡せるも遂に其の蹤跡を得ず翌二十七日空しく歸還せり近時馬賊に對する討伐効果更に揚らざる爲め良民の不安を感ずること痛切なりと

●鎭海の火事

二十日午前三時半頃慶南鎭海紅梅町木原文作方より出火し警察署憲兵分隊より係官出張消防を指揮して消防に努め五戸を全燒して午前四時半鎭火せり又二十一日午前一時半頃同地菊川町十六番地の空家より出火一棟を全燒して午前二時二十分頃鎭火せり

讀者文藝（一等に五十錢の切手券を呈す）

△物は付『意地の惡いものは』

○勸業債券の當選番號（一等） 京城 六花

▲芝居の顏役 京城 桐乃家一葉
▲電燈の故障 仁川 松羽
▲運動會に雨 京城 良子
▲仲裁者 義州 松月
▲隣寄に逢れ子 元山 芳月
▲生酔のいたづら 利川 花郷
▲麥藁散 木原 迷々生ノ島人
▲無い物強請 利川 うらなり
▲隣の猫 水原 雲月生
▲若い晩の長小便 元山 内山 漂居
▲質使の婆 恭恩 香潮
▲伊勢參頭の萬野 京城 山川生
▲運命の神 水原 芳風生
▲モウ少しの面掛へ 龍山 天雷
▲外出の間際に來客 京城 コロリン
▲三番目の兒 龍岩浦 劍牛
▲客の前で居候 元山 靈貝 默蛙
▲登臨時の停電 京城 奥村 蕭

●梅悟の自首

和歌山縣和歌山市上野町生れの高橋定一(三九)は大邱上町印刷會社に雇はれ中本年七月中旬會社より亞鉛版二百枚を窃取しその後數個所にて金時計萬年筆等を窃取して郷里に逃げ歸り居りしも悔悟し此の程大邱署に自首せり

●貞婦の投身

忠南瑞山郡仁旨面成里李京鎬の妻朴氏は貞操を以て界隈に評判ありしが李京鎬は賭博に耽り遂に死亡せしより悲痛の餘り遂に自家の井戸に投身して死するに至れり是の行爲を以て烈婦等は李氏の爲に殉死なりと賞讃し居れるが斯の如き行爲は其の哀情に於ては憐れむべきものなるも殉死を善行となせしは往古未開の時代に屬し甚だ貞婦たる本旨にも悖る可きものなるより瑞山郡守は此の旨一般へ訓達したりと（公州）

致富に志して
一代の風雲兒

目下北鮮の山中に虎狩の壯舉を試みつゝある山本唯三郎氏といへば世人の多くは今次の大戰以來頭角を顯はした船成金の一に數へられる一個の風雲兒として見てゐるが氏が今日の富を成すに至つた前半生その幼少時代の境遇を覗ふとそこに悲痛なる惡戰苦闘史が潜んでゐるのを發見する

山本氏の語るところによると氏の曾祖父に當る人といふのが上州の或る村の郷士で庄屋を勤め素封家であつた關係から

圖 藩の財政 を補けて功勞があつて其恩賞として君公から山林を賜つた、氏の生家にして其祖父なる人、姓をそのまゝ命けて坂齋山と稱せられ居る位であつた、それ等の關係から氏の嚴父の坂齋正雪氏は藩士の一人となり、藩が石州の濱田に移さるゝに隨つて同地に移住し戊辰の役には

圖 出陣して 勇名を馳せた事もあり間もなく明治の王政維新とはなつたが何分頭から武士的に教育された嚴父の事とて處世の方法も遥かには立て兼ね政府から受けた家祿代りの公債證書も瞬く間に失つて貧窮に陷るに至つた、しかも氏の母親なる人は中々の氣丈者で貧しきこの家計を一手に支へ赤貧洗ふが如き中から主人の

圖 夕食の膳 には必ず好きな酒と好物とを供へて快さす嚴父の陶然として微醉機嫌となるに纔かに滿足するのを見て、まだいたいけ盛りの子供心につく〲思つたのは『自分が成人したら大金を得て父母を安樂にさせると共に家道の再興を圖らねばならぬ』といふのであつた、この信念は深く氏の

圖 胸奥に銘じ 片時と雖も忘れた間は無かつたが十歳の頃父母と共に大阪に出ることゝなつた、大阪では氏の嚴君は其生活の道を續けるには大道商人を開すまでの苦境に陷つたので氏は夜學に通ふ傍らその往復の荷物は氏が擔いで行つたものだそうだ、斯うして慘憺たる日を消してゆくこと幾年、氏は纔かの閑も惜んで獨學自修してゐたが、氏の

圖 智識慾は 日一日と熾んになつて出來るならば學校へ這入つて正則に學問をしたいと常から心に願つてゐた、すると折よく學校に入れてやらうといふ人が出て來た、素より山本氏はこれを聽くや天にも登るやうに歡んだのであつたのである

灯とも頃しも

山本唯三郎氏の虎狩隊に就て想起こすのは朝鮮の猛獸の被害である▲朝鮮の猛獸は云ふ迄もなく名物の虎と豹と熊、狼等である▲大正五年中全道に於ける被害を聞くに家畜を別として人間の被害のみでも殺された者が六十六人、負傷したものが一名に上つてゐる所を見ても一度此の猛獸に襲はれると、時は十人五人まで喰殺されるといふ事が判る▲而して其の半數は内地人が僅か三人であるのに朝鮮人は六十三人に達してゐる是は勢ひ僻遠の地は内地人が尠いからであらう▲今之を各道別にすると一番に被害の多い道は慶北の死者二十一名を筆頭に平北の十四名、江原の十二名、咸南の五名、慶南の四名、黄海の三名で京畿、忠南北、全南北、平南の六道は各一名である▲此の中内地人の喰殺された道は全南で虎の爲めに、慶南で豹の爲に、江原で猪の爲に殺されたもので▲内地人の負傷者は咸南で虎の爲に、慶南で猪の爲に二人、黄海で豹の爲めに一名、江原で豹の爲に三名負傷したといふ事が統計に上つてゐる▲而して家畜の死傷は死二千八百四十一負傷三百二十五に達してゐる

●大邱疑獄事件

既報の如く大邱有志黒川圓次、古川文之助、町田久吉に關する[illegible]事件は[illegible]り黒川圓次のみは詐欺として大邱地方法院單獨部公判に移され一件[illegible]

[illegible]二十日夜飲食店韓元散方より二十日午後九時廿分頃失火し正に大火に及ばんとするを[illegible]

●連絡船上陸客

二十四日後入港さくら丸一二等客 [illegible]

讀者文藝課題及び募集規定

▲川柳は端書又は同形の用紙一枚毎に紙上の雅號又は匿名の外に住所氏名明記の事 ▲[illegible]

氣象 曇り一時晴れ [illegible]

◉朝鮮名物◉ 金剛飴 金剛山 金剛糖 栗羊羹 京城本町 電話二十七番 四七五番 龜屋

寫眞 寫眞出張撮影 寫眞銅版、亞鉛版 最も進歩せる技術を以て最も廉價に可成迅速に 京城日報社 寫眞製版部

釜山商店案内

雜貨卸問屋 月刊商報呈送ス 釜山大廳町 明治屋本店

米穀調製器 收穫用器具 販賣 竹製消火器 南鮮發賣元 地方特約店募集 釜山本町 朝鮮勸農商會

長岡商店 釜山辨天町長手通

洋酒罐詰卸商 釜山長手通 あづまや商店 振替京城三九番

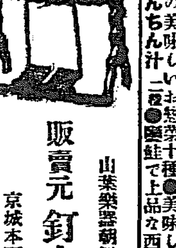
卸問屋 洋菓子洋酒 食料品 英米輸入 東京三河屋 滿鮮代理店 商報發行 釜山幸町 ミトヤ商店 電話八三一番

内外雜貨 冬物荷 全部揃 （御下命次第發送目錄呈） 近藤商店 釜山本町三丁目 電話長七六八番

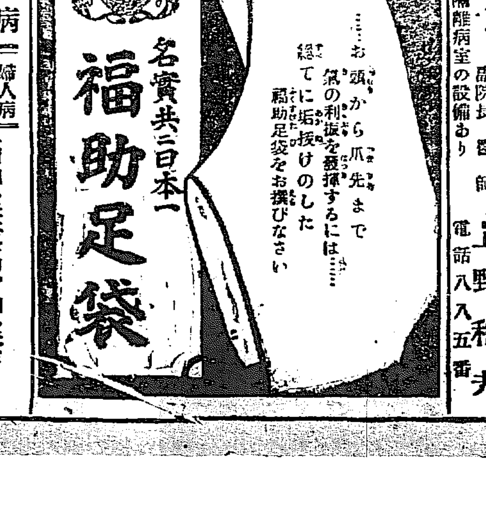
▲意匠圖案 ▲美術刺繍 ▲石版描畫 パピラス圖案社 京城永樂町二丁目七六

料理の友 十二月號 美麗寫眞版 彩色木版 十數個 百餘個 挿入
安い物で立派な生活法 東郷博士 ●上手な買物法 三輪田元道 家庭で改めたき事 石黒男爵 ●料理に就ての希望 野菜にも澤山の營養分が有る 川瀬ドクトル ●一人前十錢で樂しい夕飯の御馳走 ●野菜と乾物の洋食 何の家庭にも向く毎日のお惣菜 一ヶ月分 ●肉の細切向の旨煮……三種 ●夕飯の野菜飯 ●鰯飯 ●鯖飯 壚魚で出來る安價料理 新案料理 ●有合せの材料で不意の來客をもてなす新式即席料理 ●甘藷と八ッ頭の新料理十種 ●一品五錢前後のお惣菜十種 ●豆腐と蒟蒻の美味しいお惣菜十種 ●美味しい昆布料理 ●美味しいけんちん汁 二種 ●鹽鮭で上品な西洋料理 三種
大日本料理研究會

山葉樂器朝鮮代理店 販賣元 釘本樂器部 京城本町二丁目二九番地 電話一二八三番 振替京城六八四 目錄差上げます

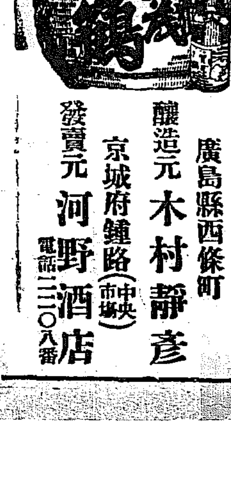


田中丸病院 京城西小門町二一番地（昔醫院跡） 院長 醫學士 田中丸治平 副院長 醫師 上野和夫 電話八八五番 【入院隨意】普通病室隔離病室の設備あり



●花柳病 婦人病 ●内科 淋病 ●耳鼻咽喉科 黴毒 腦神經衰弱、神經痛 ロイマチス、肛門病 京城櫻井町『櫻井小學校表門前』（電話架設中） 竹葉醫院 院長 竹葉善松 ―貧困者半額― 今般大和病院を辭し專ら醫療に從事す

優等清酒



釀造元 廣島縣西條町 木村靜彥 發賣元 京城府鍾路（中央市場） 河野酒店 電話二三〇八番

…日夜取調終了し町田古川の兩名は證據不充分にて不起訴となる

◉大田の宵火事

大田本町 [illegible] 同家屋一戸を打拔し鎭火せしめたるが原因は炊事火の過ちなるべく損害等目下取調中

二十四日午前入港商船丸二等客 [illegible]

◉露西亞の憲兵から隨けられた話

◆奉天に飛行機講話を試みた長岡將軍の追懷談◇

◆國民飛行協會の長岡中將は二十日北から來奉して以來各處に飛行機の講演を試みて居られる、將軍の熱心は滿鮮各所に於て多大の感動を與へてゐるがこれが爲めに國民の航空機に對する思想を普及せしめたることは蓋し非常なものであらう

◆長岡將軍と云へば其の利かぬ氣とハイカラアとで陸軍部內に識られた人であるが日露戰爭には參謀次長として大本營に在つた、當時滿洲軍總司令部は故大山公に兒玉伯が主腦者となり將軍は實に兒玉伯の後を襲うて參謀次長の要職に在つたものである

◆將軍は戰蹟からの途上奉天附近の大原野を見つゝ『廣いもんだなう、これぢやあ一個師團位ゐばらまいたつてお恥かしい譯だ』と語つてゐられた、それに紅い斜陽を車窓に見ながら『帷幄の兩將巳に隔世「追思往事感最長」……』と手帖にかゝれた、兩將とは云ふまでもなく故大山公に兒玉伯を指すのであらう、それに『用兵の塡識誰れと與にか語らむ、秋冷滿洲古戰場』とかいて默々として筆を擱かれた、窓の斜陽は將軍の白髯に輝いた

◆將軍は支那にはこれで四度目であつて、滿鐵はむかし日露戰前に通過したその追懷談があつた、當時將軍は四年間の獨逸見物を了つて露國を通過したのであつたが、モスクワからは露國の憲兵が二人尾行して來たのであつた

◆露西亞の憲兵は日露の風雲急なる折柄とて特に將軍の行動を監視したものであらうが西比利亞線でも下車するとも一拒むだ程でたうく旅順まで隨けて來たといふことである

◆將軍の歐洲見物は餘程毛色の變つたものだと聞いて居る、獨逸ではどんなことを研究されました?と訊いたが笑つて答へず『兎に角自分の歐羅巴へ往つたのは、御用有之歐羅巴へ差遣はさるといふのであつて滿洲の野原よりも意味の廣い辭令だつたよ』桂さんといふ男は總て大きなことが好きな人間でね兎に角ウラルの西裏海の東、何處でも視て來いといふ辭令だ

◆自分が此の辭令を持つて桂陸軍大臣の所へ出掛けると『今は忙がしいから君考へてやり給へ』と云つたばかり、それで自分もそれなりに出掛けたのさ、なに獨逸の强い所以か、それは奉天の彌生座で談さう

◆將軍は突如として聞いた『君は支那語をやりますか?』『兎角日本人は支那語を輕蔑してかゝるから不可い言葉の撥癈は最も多くの人に通ずるに在るとすれば支那語は少なくとも世界に誇るべき國語である、英語かどちらかといふ語であるが假令われく位ゐ使つても一億ちやあ無いか、日本語はわづかに六七千萬人に過ぎるのみ、支那語は只に北京官話のみにしても一億ちやあ無いか、若い人は大にやり給へ』(奉天にて〇〇生)

◉黑龍省の現情

五個混成旅改編計畫

奉天より派遣せる軍事顧問馬瑞蘇氏は去る十二日省城に著し鮑督軍と兵制改革案に就き商議を重ねたるが目下彼の東荒軍の如き已に命を奉じて出城し現在駐者は僅に十の三四に過ぎずして人心漸く鎭定せり鮑督軍は反抗軍官の一掃せるを機として黑省軍隊を五混成旅に改編し毎一旅の半數は本省陸軍他の半數は奉天軍及び蒙匪軍より編成し師長を置かず總べて督軍に直隸せしむる等省中の鮑督反對の公民等は種々の排鮑運動を北京政府に對して試みつゝあるも前に張奉天督軍より黑省の事は一に奉省の自力を以て解決す可く更に中央の顧慮を要する無かる可きを電告し更に前報の如く揚參謀長を北京に派して一切の黑省善後策に就きて政府に陳說せしめ政府は深く張督軍の排斥運動は何等の効なく同省は張督軍後援の下に鮑督軍の手に統轄鎭定せんとするに到れり(奉天)

◉東拓貸出百萬圓

奉天東拓支店の貸出申込は其後百萬餘圓に達せるが同社が本年迄に貸出せし資金は三萬圓にして專ら奉天新市街の家屋建築資金なるが近く農業方面にも貸出を實行の由

◉大連皮革會社

大連皮革株式會社は十一月二十日第一回拂込みの上直ちに會社の創立を見たるが同皮革會社は一昨年來滿洲皮革商會及び篠田製革所の經營せる處の製革業に對し都督府より事業發勵の爲め本年七月より工場及び機械器具を無料貸與せらるゝ事となりたるを以て其の基礎を確實ならしむる爲めに市中の資本家數名を加へて株式組織とする事となり經營者田邊源四郞野村沫氏等發企人となり株式は公募せず全部發企人にて引受け十月十五日證據金の拂込みを爲し前記の如く二十日愈々第一回拂込みを終りて創立せられたるが同社は資本金二十萬圓にして事業は皮革製造販賣を主とし製革副產物諸皮毛買賣加工販賣等をも兼營すべしと(大連)

◉支那金融逼迫

留暴落も一因

最近支那側金融は益々逼迫を來たし商業は日に不振に赴き資金需要の切迫と共に何れも皆苦痛を感じつゝありて例令へ特產出廻期に入るも容易に市況恢復し難きの觀あり金融逼迫の原因は支那銀行が貸出を引締め居るにも因れど最近に於ける兌換は日步一割の利得に達するより支那人間には兌換熱再勃し錢業者の資金は常に此方面に吸集せられ又昨今の如く留紙幣の暴落を告げたるは該紙幣勢力の强大なる滿洲に於ては此れに依りて受くる影響も亦鮮なからずして該紙幣による支那人の資產は目下全く消滅に等しき情態なれば留價格の回復するに非ざれば支那金融は益々逼迫の兆ありと(奉天)

◉大連商業學校

大連商業學校は東洋協會の經營する處なるが近來大連市の發展に伴ひ高等科增設の議あり各方面の有志者より增設經費を本團體館の申込みもありたるも少なからざりしが都督府に於ても都督、民政長官の交迭したる爲め問題之れに及ばず從來大連市には大豆受渡しに關する紛擾あり一時商業學校擴張問題も立消の姿なりしが其の擴張は一般の希望なると田中氏寄附の奬學金等に存するを以て其の擴張は早晚實現せらるゝに至るべし(大連)

◆廢物利用

石炭よりて生ずる

本年は燃料の饑饉歲として價格は騰貴に騰貴を目して今日に至りては平年に比較して約五割方の騰貴なるが就中石炭は撫順、安州の兩炭共約十割の暴騰なるが之れと同時に需要者に於ても種々の方法を案出して燃料の節約に勉めつゝあり昨今市場に於ては一度燃料として使用したる石炭料をストーブより取り出し之れを七輪に移し飯業を炊く材料として使用しつゝある向きあり又炬燵に移し保溫料とするときは十餘時の長時間炭火と同樣の効力を有すと

◉江景輸出穀類

十月中に於ける江景より各地に向け輸移出せる穀類數量を聞くに玄米二千四百六十七石白米六百四十七石花胡百八十七石大豆六十石等にして昨年同月の輸移出額に比するに玄米千七百十七石を增し白米に於て六百六十三石を減じ花胡百七十三石を增し大豆三百石を減じたりと

◆大連より

○滿洲の市場に行はれて居る幾多の通貨の中で朝鮮銀行の小額紙幣は日常の取引上に最も重要なる地位を占めて在る事は今更云ふまでもない

○此の小額紙幣が南滿洲全體でどの位發行されて居るかと云ふに十月末の統計に由ると四千四萬八千圓に上つて居る補助貨の發行は大紙の場合通貨の一割位とされて居るから兩銀行の滿洲に於ける經濟の進步は推して知るべきである

○滿洲に於ける朝鮮銀行の支店の中で小額紙幣を最も多く出すのは長春で回收の最も多いのは大連の支店であるさうだ

○回收の最も盛んなのは春夏の候で少ないのは冬期である凡て滿鐵の各停車場收入に依れて居る、つまり沿線各地から小額づつの乘車賃金が本社に集まつて滿鐵本社から銀行にまつて回へつて來る

○其の回收した紙幣の中には苦力先生たちの手を一巡して來たものが少くないから隨分汚れて居るのが多い、そこで汚ない紙幣は一と纏めにして發孔した上で本店に送り燒棄する事になつて居る

○紙幣も支那人などの手に這入ると一日二日の內に手にも取れぬやうに汚れて終ふから手に負へない支那人の下級社會には札入などの用布のと云ふ氣の利いたものはなく、鳥の巢のやうな懷や帶の中に丸めて込んで置くのだから直ぐに揉めたり汚したりするのは蓋し當然である

○滿洲にのみ行はる目的で發行した此等の小額紙幣が近來少からず朝鮮にも逆輸入されて遠からず朝鮮の補助貨の中にも相當の流通步合を占めるであらうとの事だ(京城生)

◉製絹會社の復活　去る二十日より [illegible]

神社と寺院

○本能寺御會式(木標橋通)　宗祖日蓮 [illegible] 御會式を廿六日午後五時より修行し信徒氏の本派布教師に五枕長老、喜多 [illegible] の說教等ありて御通夜を修し御齋の饗應あり

○日蓮宗の御會式　旭町弘法寺にては [illegible]

白山黑水

▲長春に近き某古地方を旅行した人の話したによると [illegible] 近には隨分 [illegible] に往つて見ても所々に [illegible] 敎師といふ名義で傍ら貧民を救け指導するといふ有樣、支那人も非常になついて居る相な▲ところが其の宣敎師はまた非常に職務に熱心で多年地方の降雨量などの氣象上のことから物資の集散事情等なか〳〵綿密に調査して居る相な▲それで一度外人の商人が出掛けて往つても經濟上の智識が立所に得られるといふ事だ相な▲これと同じ樣なことは先日吉林の滿鐵醫院內でも見た▲それは一人の年若い米國人があつて診察を待つ暇々に支那語と漢字の研究に耽つて居つた一事である▲漢字はわれ〳〵日本人にとつては左まで難かしい文字でも無いがあの橫文字の人達が熱心に四角い象形文字を研究する努力に對しては大に敬意を表してよいと思つた▲哈爾賓の昨今は非常に危險といふ者もあるしまた噂ほどで無いと云ふ者もある▲しかし日本側の銀行では先日正金銀行が襲はれてから以來非常に警戒してゐる▲支那側銀行は平氣でやつてゐるが最近では一日ホンの二三時間の支拂時間のみを營業して後はモウ一切門を閉して了ふさうな(奉天)

おとぎばなし　地下眼鏡(上)

地下眼鏡!　地の底の有樣を地上から自由に見られる地下眼鏡を發明しようと、松彥は三年ばかり一生懸命になつて研究しました。二階の一室を研究室として、學校から歸ると御飯を食べることさへも忘れるやうにして研究した甲斐があつて、やつと地下眼鏡を拵へ上げました。

松彥は天へ昇らうとして昇りついたほど喜んで、二階から驅け下り『お父さん出來ました。地下眼鏡が出來ました。』

『ナニ、地下眼鏡が出來たか。それは豪儀だ。どれ見せなさい。』とお父さんはお居間から飛んでおいでになりました。

『はい、これです。』と松彥がお父さんの前に出しましたのは昔流行つたやうな遠眼鏡!

『昔の遠眼鏡そつくりだな。』

『さうです。型を昔の遠眼鏡に取つたのです。これで十分目的が達せられます。』

『それでどうして地下を見るのだ』

『小さい穴を掘つて、その穴から覗くのです。』

『もう覗いて見たのか。』

『まだ覗いては見ませんが、大丈夫半里ぐらゐは見ゐる筈です。』

『半里も見ゐるのかね?』

『見ゐますとも。』と松彥は地下眼鏡を持つて庭に下り

『一寸火箸を貸して下さい。』

『火箸か。何するか?』

『穴を掘ります。』

『さうか。』とお父さんは火箸を二本松彥にお渡しになりますと、

『一本で澤山です。』と松彥は一本の火箸で庭に小さな穴を掘り、地下眼鏡を三分の一ばかりその穴に入れて、上から覗き始めました。

『見ゐるか〳〵。』とお父さんは緣の上から仰しやいました。

『見ゐます〳〵。』

『ナニ見ゐる?』

『見ゐますとも、庭の下は岩ばかりです、覗いて御覽なさい。』

『覗いて見ようかね。』とお父さんも庭に下り、松彥に代つて地下眼鏡に目を當てゝ覗いて見て

『やあ見ゐる。成程岩ばかりだな。』

『さうでせう、岩ばかりでせう。』

『不思議な物を發明したものだ。』とお父さんは穴から地下眼鏡を拔いて、松彥にお渡しになりました。松彥は地下眼鏡に附いた土を拭いて

『僕はこの地下眼鏡で、金銀銅鐵石炭などを發見します。地下眼鏡を利用してそんなものが苦もなく發見されたらどんなに國益になるか知れません。』

『さうとも〳〵、それはさうとも。』

『どうぞ私に一個年間お暇を下さい。』

『好し〳〵望み通り暇をやらう。』

『明日から僕は地下の探檢にまゐります。』

『いよ〳〵探檢に著手するかね。』

『はい。』(つゞく)

左甚五郎

第九十四席

桃川如燕口演　浪上義三郎速記

甚五郎は張嶺の原を後に [illegible]

狹くなつて來たけれども、今までは道が廣かつたんだが、大分狹くなつてしまつた、困つたな、恐らく草が人の丈より高いのだから向ふが見切れぬに、誰か來て吳れば宜いが、困つてしまつたな、何處か聞く處は無ゐかしら』と立止つて四邊を見廻すと、向ふの方でウーンといふ呻吟聲、ギヨッと驚いた甚五郎が思はず二足三足後へ退りますると 女『姉さんや確りして下さんせ』と氣を確に持たにやア叶かねね、姉や確りしてくんなせね』と云つて居るのは未だ年の幼かない女の子の聲だ、何だかしらと草を押分けまして入て見ると、年齡十五六になる田舍娘、胸先を抵へて大地に仆れて居る、十一二になりまする妹と見ゑ俺も龜崎へ行くんだが道が些とも判らねね、何うだ一ツ案內をしてくれねゝか、お前の姉ゐを俺が背負つて行つて遣るゐ 女『あゝ有難うござゐます、恐うしてくれりやア俺かも助かります、じやア小父さん、姉ゐを何うか背負つて行つておくんなせゐ 甚『あゝ宜し〳〵、其の代りお前先へ立つて、龜崎まで案內をしてくれなけりやア叶けねね 女『あゝ宜いともね、じやア何うか姉ゐを脊負てやつてくんなせえ 甚『あゝ宜し〳〵さア、其方へ退きな、確りしな、確り、定めし困つたらうこんな處で癪を起した節にやア何うすることも出來ねゐ、さア俺の肩へ捉まつて、宜しか確り捉つた、ドッコイショ』兩手を掛けて脊負ひました 甚『恐しい重い娘だな、何うも用合娘は己が作つた覺の知れない物を食べて居るんで恐しい何うも重いや、まア何んといふ娘だ、オイ姉さん、先へ立つて姉に道を敎へてくんな 女『ハイ、此方へござらつせえまし』先に立つてスタ〳〵妹は出掛ける、後に尾いて甚五郎、姉さんどのを脊負て來りますが、何うも重いの重くないの、又先へ立つて參りまする小娘が、チヨコ〳〵其の足の何うも早いこと 甚『オイ〳〵然う構はずに驅けて行つてしまつちやア叶かねね、少し待ちな、もつと靜かに行つてくれなければ叶かねえといふことさ、オヤ……オヤ何處へ行つてしまやアがつた、困るぢやアねねか、姉やお前の妹は何處かへ行つてしまつたが、此處は右へ行くのか左へ行くのかお前敎へてくれなくッちやア叶けねね』と後を振返つて脊負て居りました娘の顏をヒヨイと見ると、コハ如何に、樣の所からヌーツと顏を出して居るのは大きな石の地藏樣の頭であつた 甚『オヤッ……』甚五郎膽を潰して手を放すとズドーンと大地へ打仆れました。

皮徽科 外科　京城太平通二丁目　扇田醫院　電話二二五八番

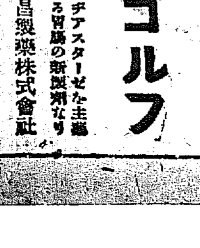
一般皮膚科 花柳病科 外科 泌尿器科　院長 安部修三　京城永樂町二丁目金光教會隣　安部醫院　電話西一九番

おかちやん生んで　ぬしによう似た　木村屋パンでも持たせたい　(京城明治町 電二六七〇)

九星　十一月廿七日　丙　十月十三日 癸酉　本命一白北開佛滅 [illegible]

周易　介石堂　明治町三丁目　岡村介石

田村久兵衛 解傭　右之者詐僞的不都合の行爲數重なり今般解傭致し候に付ては自今當商會には何等の關係無之候也　但し常人御方は是非乞御一報　京城南大門通五丁目　諸機械材料商　京僧商會　電話二九四〇番



廿錢　三十錢　一圓　健胃消化錠　ゴルフ　タカヂアスターゼを主藥とせる胃腸の新製劑なり　東京室町　泰昌製藥株式會社

演藝案內

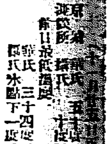
大正館　櫻井町　電話八七三
▲十一月廿三日より三大寫眞と大餘興提供
○米國キーストン會社作 [illegible]
○悲劇『鬼の重三』(全四卷) [illegible]
○探偵活劇『二人探偵』 [illegible]
▲新派活悲劇『雨夜の女』(全四卷) [illegible]

有樂館　明治町二丁目　電話 [illegible]
▲米國式空中美人胡蝶の戲れ [illegible]

浪花館　明治町二丁目　電話二六〇番　一行　十一月廿五日
一番目 喜劇 [illegible]　二番目 浪花節　三番目 女車夫 [illegible]

黃金館　電話二三六三七　二三六六
▲十二日開催興行は正午より [illegible]
▲新劇『金山貉』 [illegible]
▲活劇『死之山』全四卷 [illegible]
▲新派家庭大悲劇『七色珊瑚』 [illegible]

▲宛名は京城日報編輯局讀者文藝係



汽車時刻

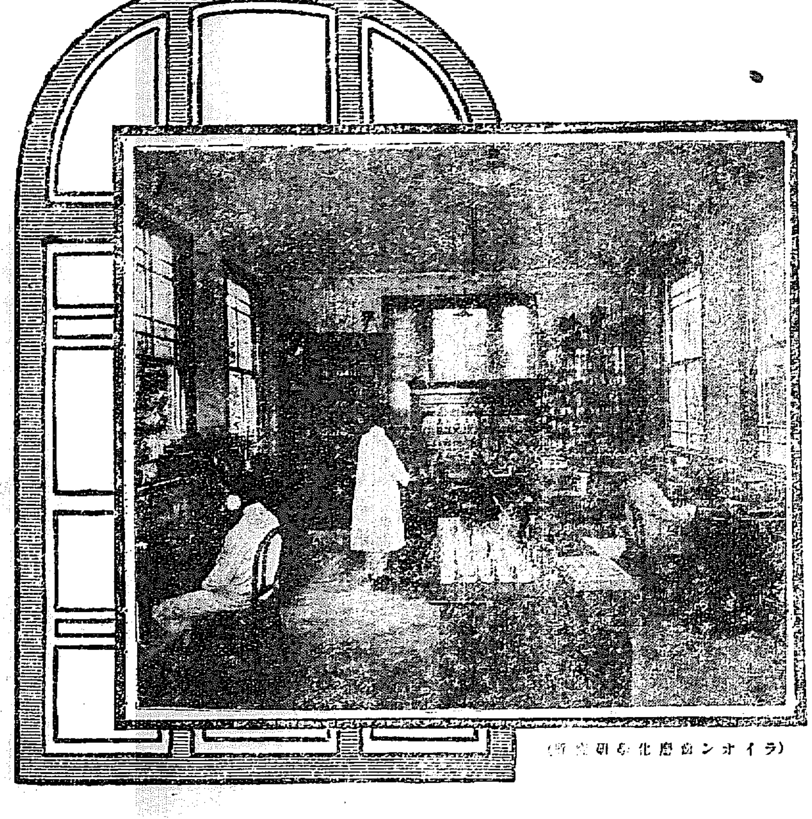
京釜線（南行）　同（北行）　湖南線（南行）　同（北行）　京義線（北行）　同（南行）　兼二浦支線　京仁線（仁川行）　京元線（北行）　同（南行）

ライオン歯磨が 模範歯磨として推奬される理由

ライオン歯磨化學研究所の任務

ライオン歯磨の[illegible]料は、其使用前に、總て品質の物理學的試驗、並に化學的試驗（分析試驗）を行ふほか、猶は醫學上藥學上の見地から、其原料が果して衞生上適當のものか否かを嚴重に調べます。そして之れが純良、理想的のものである場合にのみ、初めて採用する事になります。次に此原料は綿密な注意と完全無菌な工程とを經て製品となるのでありますが、斯樣な製品に對しても亦更に嚴重な分析試驗を繰り返すのは勿論、各種の容器も亦特別設備の消毒器に入れて消毒し、豫期通りの好成績を收め得た事を確めましてから、漸く市場に送り出すのでございます。

斯く原料の精選を猶し、自製化工品の監督を爲すのみならず、一方に世界のあらゆる歯磨剤、含嗽剤、消毒剤等の分析乃至比較研究を怠らず致しまして、常に日進月歩の時勢に應ずべく、製品の改良、製法の改善といふ大切な仕事を[illegible]



（ライオン歯磨化學研究所）

[illegible]て居ります[illegible]ライオン歯磨化學研究所[illegible]其使命は[illegible]ものでございます。故に化學研究所には、學術と實地との兩方面に優れた幾名の專門技師と[illegible]研究に向つて、[illegible]して居るのでございます。斯樣な譯で、ライオン歯磨化學研究所といふものは、一方に於てはライオン歯磨に對する冷靜苛酷な檢查官であり、又他方に於てはライオン歯磨の品質優良を請合ふ保證者の位置に立つものでございます。

ライオン歯磨各種製品の完全

ライオン歯磨の各原料は、斯樣に精選に精選を重ねまして、[illegible]標準に達したもののみを合格品として採用いたします結果、各種製品は（粉製・煉製・水製共）常に内地製品のみならず、外國製品に比べまして、遙に優良なることを[illegible]のでございます。又た製法に於いてはライオン歯磨獨得の機械と多年の經驗と最新の學理應用とに加ふるに、熟達せる技術と、周到綿密なる注意とを以つて

[illegible]致しますが、[illegible]醫學上から[illegible]ましても、理學上からみましても、將た又た工學上からみましても、絶對に無謬といふものがございません。[illegible]隨つて日勝[illegible]して居る事は申すまでもなく、これが專門家連に一般の世評でございます。且つ芳香の雅、色彩の快等も、亦ライオン歯磨の名聲をいやが上に高からしめて居るもの[illegible]でございます。故に歯の養生法として[illegible]は、[illegible]ライオン歯磨をお使ひなさるのが何より安全で、これ以上の方法はないといふのが今日の確説でございます。

ライオン歯磨が、歯科醫諸君を始め、其他それぞれ專門家諸君から、本邦唯一の模範歯磨として推奬せられ、且つ事實に於て、其産額、其販路共に、他に優越するものは、實に以上の諸點に基くからでございます。

ライオン歯磨化學研究所所員

藥劑師　柏倉清基　　藥劑師　松野惠藏
藥學士　黒川義信　　工學士　竹井俊郎
歯科醫學士　清水儀三郎　　歯科醫師　絲川宗作
歯科醫學士　岡本清纓

東京本所區外手町
ライオン歯磨本舗　小林富次郎
ライオン石鹸
支店　大阪市[illegible]　名古屋市[illegible]
（573-6）

京城日報
二十六日朝刊
(朝夕刊併せて八頁)

支那漫遊
古石佛寺
蘇峯生

北京の北方十五哩、湯山温泉旅館より一書寄呈。

十月廿五日早朝、汽車中に目を醒し、昨夜の豪雨を知る。八時五十分、駱駝轎に乗りて、大同城の西三十餘清里の、雲岡山古佛寺に向ふ。駱駝轎とは、馬の前後に轎を著けたるものにして、人に擔はしむる代りに、馬に擔はせたるものと見れば可也。

雨後の朔風、人を凍殺せんとす。見渡す限り、林際、墟邊、一樹として葉あるはなし、全くの枯枝也。而して泥深き三尺、馬蹄の遲々たる知る可し。曠原盡きて山徑となる。路は玉河の上流の一なる、武周川に副うて、幾回となく之を徒渉して行く。兩山皆石、而して石は概ね煤炭にして、炭層の地上に露出する、隨處皆な是也。

山寨川村、午後一時、前漸く雲崗の宿山の奥に聳ゆるを認む。朱閣は問はずして古石佛寺たるを知る。是れ六朝拓跋魏時代、僧曇曜の開鑿、鐫彫したる者と云ふ。而して附近の洞穴、一として佛像を安置せざるなし。然も數量は、其中に於て牛羊を飼養しつゝあるを見る。是れ所謂る佛牛一如歟。

寺は實に雄麗、宏妙なる結構也。七寶莊嚴の語も、之を形容する能はず。但だ蕭然荒涼、闃として人影なし。護衛兵や、隨行の憲兵隊長等と與に、勝手に寺の内に入れば、稍く一個の寺男らしき者、何處よりか出で來れり。彼に問へば、拙者が此寺の僧と云ふ。果して然りや否やを知らず。兎も角も彼を先導として、石佛を見る。石佛の高さ七十尺、奈良大佛と伯仲の間と思はる。全身朱白にて塗抹したるが爲めに、聊か俗了したる嫌あるも、眞に傑作也。此れより寺樓に上る。第一層樓より第四層樓迄、各層毎に石佛の肢態と相對し、第四層樓上に至りて、漸く石佛の眉目と相對す。架板、階段、半ば朽廢し、一歩々々轉ずる毎に、戰々兢々の思をなさしむ。纔かに佛陀によりて無事を得たり。

大同城外朔風吹。雨後玉河殘石碑(?)……陂(?)……不動。……

[illegible]……も石佛は、此の一五佛に止らず、大は……小は……其の周邊に……知らず。……の石佛……此邊皆な沙岩……左右に大窟、小窟、悉く石佛……[illegible]

歐米の交通警察(一)
土木局技師 坂出鳴海氏談

一昨年私が歐米を視察しました時に取分け感じたのは、英米其の他の諸國人が一般に自制心が強く、子供に至るまで能く其の掟を遵守するのを見て、私は非常に愉快に思ひました。例へば一般自制心の強い結果は市街交通の如き一絲紊れず整然として居ります。之は何れにも感心せらるゝのは、如何なる往來人、馬、絡繹たる街路に在りましても、途上に居る一巡査の一擧手一投足に注意し、能く其の命令を遵して指導に順ふ事であります。どんなに雜沓する市街でも一巡査の指揮に依つて何等の混雜も怪我人も無く、順序能く運んで行くのは見て居ても氣持ち好く思はれます。歐米では一般に巡査は大事にせられて居ます。……の衝突無く混雜無しに、西から流れ來る人も、東から出て來る人も、誠に順序能く運んで行くのであります。是等の巡査は交通整理の專門であります。……若し掏摸が走つたり或は火事等がありましても、其の方面に手を伸ばす餘裕を有ちません。唯一意專心朝から晩まで交通整理の事に從つて居ると云ふ有樣であります。故に道路上に惹起し易き色々な支障事件を未發に防ぎ、大損害から救ふと云ふ手柄は市街の四角に立つて居る交通整理專屬の巡査に負ふ所が非常に多いのであります。倫敦に「シチー」と申す目抜きの街がありますが、其處は一哩四方の廣さの殷賑なる場所でありまして、晝間諸處から此の往來に出て來る男女の數は百萬人に達すると云ふ事であります。此處には有らゆる銀行、商事會社、大商店等が軒を並べて、實に世界の財界を左右して居る處であるさうですが、倫敦で其の雜沓は非常なもので、此の「シチー」の交通警察の爲めに一千百人の巡査を配置し、辛ふじて其の整理をやつて居ると云ひます。歐米では交通警察と云ふ事に如何に深い注意を拂つて居るかは是等の事實に依つて判るでありませう。非常に繁華な市街では、[illegible]……

都市に於ける自動車……[illegible]……只今の自動車は市内に於ては一時間二十九哩乃至三十哩の速力に制限されて居ます。市外に在りては五十哩内外を許されて居ます。此の速力制限に就いては、警察に於て非常に喧しい取締を行つて居ます。即ち市内若くは市外の要所々々に甲乙二人一組の巡査を配置しまして、速力取締を專門にやつて居ます。一定の距離を隔てゝ二人の巡査が見張りを爲し、或る時間に其の定められた距離を走る自動車の度合を見て、互に手を擧げて合圖し、其の速力を計り、制限以上に速力を出した者があれば、或は鑑札を取上げ、或は告發の手續を致すと云ふ手順になつて居るのであります。

丁巳十一月忘機吟社席上賦之乙諸賢高和(三) 江原 如水

遊邊逍遙縱氣豪。身從風露竹逾高。白山之雪綠江月。悠悠迎君照彩毛。

評曰氣高力勁。可謂風流吐屬。

次韻 矢山 限部

手觸星圖興趣豪。天風吹處賦登高。人間十二萬千歲。何恨塵沙浪髮毛。

評曰異摯移人。不必求字句工也。

次韻 魯石 成田

才律驚人意氣豪。吟胸落落白山高。杜逢調恨明朝別。旋怕沙塵侵鬢毛。

評曰異率可誦。

次韻 藤陰 藤倉

吟社多年伴俊豪。薄才何顧姓名高。平生只恥無能筆。頭上染霜千百毛。

評曰吐露天眞無雕飾。

次韻 三頑 齋藤

欣看風骨與年豪。雄志元於長白高。挺一身投家國事。笑言我命等鴻毛。

評曰筆意壯勁。

諜 (13)
布施生譯

[illegible]……老人は手で拂へて『なる程自……』……『そんな事は無い』と……手の男は一體何者だやと思召して……被告る。』『知れた事、貴方の……ですぞ』『大變だ、實は斯樣の息子さん……』は『譯、老人から顧太郎夫人を……』に眼を移して一渡りづらりと……の邸を見廻しかつ『そんな事は無い』をんな事が有りやう筈はない』老人は馬鹿にされてゐるなと云ふ感じに胸を衝かれてそう叫んだ。眞正なら何か證據があるでせう』。『證據は私にあります。さへすれば遠からず、直に歸ります』『譯、老人はそれから例の要領を得た話振で藏部や顧太郎の一件を話して聞かせた。聞いてみれば餘り難有い話では無い、しかし自分が疑つたあの罪よりは此方がまだしもである、元來自分が妻を憎んだのは妻を愛した餘りであつた、其の妻が二十年餘り前若氣の過失から犯した罪ならもう宥してもよさうなものでは無いか、しかも妻はそれから此方一身を捧げて、昔の罪を償はうとしてゐたのだ。もし顧太郎が其場に居なかつたら彼は大手を擲げて其妻を擁抱き『もういゝ、もう可い、昔の事は夢にしやう。』と慰めたに違ひはなかつた。

都會及農村 副業研究號
副業の心理的並に教育的價値……高島平三郎 / 副業の實際的注意 / 副業と家庭 / 副業問題 / 婦人の生活と副業 / 婦人と副業 / 本邦副業の根本義 / 食住問題 / 家庭の副業 / 家庭副業と婦人 / 婦人の内職問題 …… [illegible]
發行所 洛陽堂

最新式入學案内
定價六十五錢 送料六錢
東京學生相談所編纂

最新刊 最新職業指針
三六判 定價四十錢 送料四錢

腕白時代の自炊生活
岡本一平 装幀(並)挿畫 大町桂月序 太郎著
定價六十錢 送料六錢
發行所 米山堂書店

實驗花卉園藝 續篇
宮澤文吾君著 正價貳圓參拾錢 小包料金十八錢
農學博士 原熙君序

新刊 鳥類講話
内田清之助君著 正價二圓 小包料十八錢
發行所 東京日本橋 警醒社書店(?)

染料顔料
德國洋行
德國洋行出張所新設
從來弊行製品を朝鮮に於て德高洋行に一手販賣爲致居候處逐日販路擴張の爲一層發展向上仕度左記に出張所を新設仕候間倍舊御愛顧願入候
品質と 賣行と 効果と 三拍子揃つた……
品質本位は弊洋行の主義にして其賣行數の激增は其反面を立證するに足る獨歩の染顔料に御座候特に他品と御對比の上御愛顧願上候
大阪市東區南久寶寺町二丁目 德國洋行
大阪府中河内郡石切 德國洋行工場
京城南大門通三丁目 德國洋行朝鮮出張所

家庭常備の發明品 便利重寶の發明品
火災てふ文字は將に字書より除かれん
安全第一 衛生こたつ かいろ
新案特許 第四二六五八號
定價 こたつ金五十錢 かいろ金二十五錢
特約店募集
▲火無こたつ……は水に浸せば百八十度の温度を四十時間以上持續す
▲火無こたつ……は二十五日以上の使用に堪ゆ
▲火無こたつ……は火氣を用ひざるを以て火災の虞更になし
▲火無こたつ……は湯水等の浸出する患なきを以て旅行觀劇來客用として頗る好評あり
▲火無こたつ……は待合料理店、理髮店工場病院等往來頻繁なる處に用ひて一層効果著し
▲火無こたつ……は人體に有効のものを原料とせるを以て衛生上缺く可からず
東京市麴町區飯田町三丁目十番地(電話番町二八一九番)
發賣元 特許品製作株式會社
火災を撲滅する發明品
經濟無比の發明品

最大德用の燃料
京城電氣株式會社製
石炭 木炭 煉炭 代用品
瓦斯コークス
價格低廉火力旺盛煙筒掃除を省く燃へ付よき
壹噸 二十九圓(持込共)
壹叺 一圓三十錢(持込共)
一手販賣店
京城旭町一丁目 戸澤商店 電話九八四番
京城旭町一丁目 横山屋商店 電話貳參五番

一等割增金貳千圓附、最初五箇年は年三回抽籤
初回くじびきは明年二月(割增金總當り)
第六十七回 勸業債券(四分利)(拾圓券)賣出
來る十二月一日より十五日まで
日本勸業銀行及各地代理店、取扱店並に郵便局にて

◎休戰交渉成立か

露國側よりリガ方面の獨逸司令官に致せる休戰交渉は既に成立せるものゝ如くなるも未だ發表せらるゝに至らず（倫敦電報）

◎冬宮占領さる

軍事革命委員會の活動

露都は今や完全に過激派の占領する處となれり即ち露都勞兵會に依りて組織されたる軍事革命委員會は過激派の指導により二十日必死の活動を爲し露都を圍繞せる附近の都ての停車場を占領せり重なる郵便、電信、電話は依然として過激派の掌中に在り又共和會議は解散されて軍事革命委員會に合併され各政府軍顔色無く然も露都守備隊及び哥薩克騎兵隊は局外中立の態度にて傍觀しケレンスキー氏は二十一日夕刻全く行衞不明となり次で露都軍管區司令部は過激派に降伏し今や過激派はペトロパウロスキー要塞及び巡洋艦より冬宮を攻撃し冬宮は二十一日午前二時過激派の手に占領せられたり假政府の大臣は尚ペトロパウロスキー要塞に監禁中なり（露都電報）

◎領事團の保護提議

哈爾賓浦鹽の無秩序と外人の危險

哈爾賓、浦鹽は無警察狀態に陷れるを以て在留外人の被害發生し今後の危險測るべからず依つて在哈爾賓日英米三國領事は二十一日會合協議の上二十二日東清鐵道長官ホルワット氏を訪問し同地及び沿線に於ける外人の生命財産保護に關して提議する處あり同氏の回答如何によりては自然三國の兵を以て其の治安を維持し該地方の行政事務取扱を開始するの已むなきに至るやも知れざる旨警告したりと（哈爾賓電報）

◎獨間諜講和運動

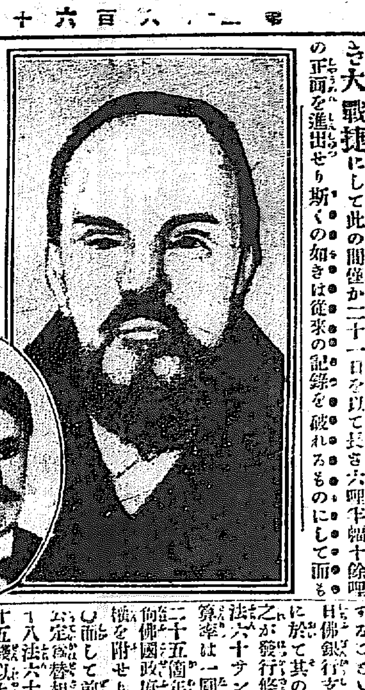
露都駐剳米國大使の報道に依れば獨逸の間諜は公然講和運動に奔走中なりと（倫敦電報）

◎露外交文書無効

露國新外相ツロツキー氏はミリュコフ氏以來の秘密外交文書を以て悉く露國に取りて無効なる旨を宣言したり（倫敦電報）

◎英軍ヒ線突破と勝利

英軍がカンブレーの戰捷によりてヒンデンブルグ線を突破せるはイーブル線に對應す可き大戰捷にして此の間僅か二十一日を以て長さ六哩半幅十餘哩の正面を進出せり斯くの如きは從來の記錄を破れるものにして而も此の戰闘に於て獨軍は毫も英軍の企を知らず尚英軍飛行機百餘機が戰闘開始と共に空中攻撃を開始するや之に對抗せる獨飛行機は僅々五臺に過ぎず而已ならず獨軍の砲兵は全然其用を爲さず英軍の死傷は敵捕虜の數よりも遙かに尠なかりき（倫敦電報）



露國々務委員會總裁レーニン氏（上）外相ツロツキー氏（下）

◎北軍武陵丸を襲ふ

十八日北軍の一隊は船に乘じて西江に碇泊し荷役中なる日清汽船會社所有汽船武陵丸を襲ひ其の價二萬圓に達する米麥粉等を掠奪し梧州方面に遁走せり右に對し林公使は北京政府に嚴重なる抗議を提出したり（北京特電）

◎石井特使歸期

石井特派大使一行は二十六日午後二時コレア丸にて橫濱埠頭に歸着の豫定なり（東京特電）

◎武藤代議士著發

代議士武藤金吉氏一行は滿蒙視察の歸途二十五日午後五時五十分安東驛著一泊の上二十六日午後六時三十分安東縣通過南行すべし（安東特電）

◎南鮮葉貫近況

南鮮各地に於ける葉貫狀況を聞くに大邱附近達城郡月背面地方は稍々良好其の他の各村及び慶尚南道の各部地方は先づ普通にして出洞は日星しき品出でず北道は概して品質良好ならざるも慶尚道に於ける洛東江沿岸の三浪津附近は近來稀なる良好品を出しつゝあり今年は全體に於て取引期約廿日位は遲れたる爲め業者が年來決算資金の爲め如何に急ぐも取引多忙期は十二月末より來一月に亘る可く目下幹十七十匁乃至二圓の相場にて數日前丸商會仲買商會に於て平均一圓五十錢餘にて某外國人に約五萬斤を賣引せしのみなりと

◎所謂共通法規の內容

＝來るべき議會に提出されん＝

司法部長官 國分三亥氏談

二十五日夜東京より歸任したる國分司法部長官を本府車中に訪ふ曰く

予が今回東上したる用向は、或る法規制定に關するものなりしが、何れ遠からず發表さるゝことと成るべきも、今は之を洩らす能はず、東京、小田原及び臨岡の三監獄に就て

▲幼年囚薰化 の狀況を視察したるが、監房其他の設備は朝鮮に比し頗る整備せり。總體幼年囚は、其罪行の如何なる境遇、如何なる心理狀態よりしやを考察して境遇、心理共に改善して、其罪を再び爲さゞる樣薰化せざる可らず、此の理義は單り幼年囚に限るにあらず、治罪の根本義なるは勿論なれども、特に心身共に未成熟の幼年囚に對しては深き注意を拂はざる可からず、而して外部の刺激に搖かされ易き幼年囚を改過遷善せしむるには

▲其が境遇を 改善せしむる [illegible]

[illegible] に提出さるゝことゝ成るべきが、其施行區域は、約そ二十個條より成り、朝鮮、臺灣、樺太及び關東州等我憲法の實施されざる新領土及び租借地にして

▲是等の地方 相互に、甲地の法令は乙地に於ては其效力を認められざるものなるが、從來法律命令等各別に效力を有し [illegible] 共通法規は其缺陷を補ふべく制定 [illegible]

▲經費の關係 [illegible]

▲倶に其缺陷 [illegible]

◎馮氏內閣組織煩悶

陸榮廷氏黎氏の復職を要求す

[illegible] 黎氏の不法を築めんが爲め戰爭を起せるなり隨て [illegible] 黎氏の復職は耐へ得る所に非ず [illegible]

◎內閣組織一難關

[illegible] 後漸く距離し來れり即ち曹錕、陳光遠、王占元氏等は [illegible] 後繼內閣組織の一難關たるべし（北京特電）

◎米造船契約發表

[illegible] 百四十五隻、鋼木船四十八隻、木船三百七十五隻此の總噸數四百萬噸以上の造船契約を爲せる旨發表せり（華盛頓電報）

□佛國公債募集

○佛國政府の今次募集する四分利附國防公債を我國に於ても募集することゝ成り、二十六日より日佛銀行支店及び正金銀行本支店に於て其の取扱を開始すべく、發行條件は、發行價格六十八法六十サンチーム、拂込金特定換算率は一圓に付三法、償還期限は二十五箇年にして借換を爲さず、佛國政府の租稅を免除するの特權を附せり

○而して前記の換算率は、目下の公定爲替相場に比し、發行價格六十八法六十サンチームに對し、四十五錢以上の鞘を剩し得る勘定にて、其利廻は五分八厘三毛弱に當り、日證券造附の費用は、佛國政府の負擔とする等、頗る應募者に有利なる [illegible]

○蓋し佛國政府が現の如き犧牲を拂ふて、公債を外國の市場に醵出さんとするは、佛國に於ける資源の涸渇せるが爲めにあらずして、終局の勝利を得る迄で、戰爭を繼續するの決意牢乎たるものあり、依つて戰爭の爲此上永續すべきを覺悟し、國內の財界をして能ふ限りの彈力を支持せしめんと欲し、極東同盟國の餘財を借用せんとするに外ならざるべし。

○然るに我國に於ては、最近募集されたる、朝鮮事業公債券の成績三千餘萬圓の超過を告げ、財界は綽々たる餘裕有るを示せり、然らざるも通貨の膨脹は、物價の騰貴を誘發せる要因の一として數へられ、此際或程度の緊縮を加ふるの必要あるに方り、恰も我政府の本年度に於ける募集打切 [illegible]

を宣明せる後にもあれば、必ずや佛債は相當の成績を收め得べし。

○況んや我國は從來資金の融通に付き、佛國に負ふ處勘からず、殊に聯合國の誼を思ふ時、我國民は佛國の期待を空うし能はざるの義心を有するに於てをや。

○或は來年度發行の大藏證券三億圓を豫算しあるの故を以て、昨今稍引緊まれるの觀ある金融狀況に鑑み、此際佛債の募集を難んずる者あるかも知れざれども、徵稅期間に於ては云ふ迄もなく、大藏證券の發行さるべき性質のものなり。

○縱し今回佛債に依りて市場の餘資を吸收するも、來年度に發行さるべき大藏證券が、無法なる壓迫を市場に加ふべしとも思はず。

○然れば來年度の初頭、即ち今より四個月の後には又若干の金資を增加すべく、隨て大藏證券の發行に支障を貽すべしとは、如何にしても信ずる能はず、然かも其期に及むで、萬一形勢の不可なるものあらば、政府は大藏證券を以て民間の所有に屬する在外正貨を政府の手に收めて、更に之を日本銀行に交附し、其儘兌換準備に充當せしめ其代りに紙幣を受取るの方法も無きにあらず。

○吾人は斯る見解の下に、差當り物價調節の手段とも成るべき佛債の募集を歡迎する次第なり。

馬山

▲重砲兵隊除隊式 [illegible]

最近の在監囚數を聞くに總計二百 [illegible] 二十六人の內男二百 [illegible] 八人女十七 [illegible]

目下到る處補助貨に缺乏し [illegible] ▲十月中の貿易額 十月中 [illegible] 大邱に至る約二十餘哩の間に輸出總額六千四百八十九圓二十 [illegible] 向地は間島和龍延吉、汪淸の各地 [illegible] 大麥、精粟、玄粟、玉蜀黍、大豆 [illegible] 三十錢に達せり

第壹回營業報告

三巴酒造株式會社

[illegible]

最新刊

大阪屋號書店

花柳病專門 外科

梅毒 淋病 婦人病 ... 司生堂醫院 電話三〇六番

川合時計店

京城本町二丁目 電話二九一八 振替京城一二一九

諸鑛物分析の依賴に應ず

△廣告▽

京城日之出町 志岐組鑛山部 電話長三〇五番

蠶種と桑苗

豫約御注文の最好期！

東鮮社種苗部

滿田齒科醫院

京城櫻井町一丁目（大正館隣り）

女工募集 內鮮人

△募集數 內鮮人二百名
△年齡 十五歲以上卅歲以下
△給料 本人の働に依り十五圓以上廿二、三圓
△場所 三坂通（前陸軍官舍）周圍淸潔衞生上好適
△工場 全部新築嚴寒の際も寒さ不知の設備あり
△寄宿舍 煉瓦二階造 諸設備完全 寢室は溫突

京城三坂通 齊藤製糸社

清力

合名會社淸力商店 京城支店 出張店 釜山支店 平壤支店

虛弱者之福音

家庭靈藥 純朝鮮人蔘命貴素

朝鮮人蔘社

內科小兒科 外科

京城黃金町二丁目（長橋通角） 朝鮮診療病院（入院隨意）（電話二八三七番）

鞄製造販賣

皮より強い値の安い專賣品柳製鞄

京城本町一丁目 高木旅行用具店 電話一三四番

…たるが釜山より御用船に搭乘宇品に直航同地に上陸後解散する由▲馬山分營に於け[illegible]日同隊將校及び在郷軍人將校及び當地主なる官民を招待し同隊小銃射的場に於て射的會を開催したり[illegible]集會所にて立食の饗應あり相羽隊長の挨拶ありて宴に移り主客十二分の歡を盡して散會したり▲補助[illegible]

[illegible]切手販賣又は爲替支拂等に補助貨なき爲め一般の忌み嫌ふにも拘はらず强て切手を代用しつゝある狀を見たりと▲馬邱間の自動車

[illegible]前年同期に對比すれば輸移出に於て四千九百十二圓を減退し輸移入に於て一萬三千百二十七圓の増加なるべし

◎國境鍾城貿易　國境鍾城に於ける客月中貿易概況を聞くに[illegible]品たる生粗布、晒金巾、雲齋布、綿、和服、古着等を著しく輸出したるに起因するものなり而して之が仕[illegible]期の三千十七圓五錢に對比する時は六千三十五圓八十二錢の増加をなし示せり之れ常時輸入品たる[illegible]中[illegible]百十五斤價格九百六十七圓五十錢[illegible]なりしに本年同期に於て其數量七[illegible]爲三百六十斤價格七千五百九十二[illegible]

◎虎狩ローマンス

……（四）……

危機一髪

虎を望んで飛び掛り武器を咬み碎かうとする＝山刀を揮つて手負の虎と格闘した猟師＝足跡で虎の所在を突止める＝谷でも川でも窮然に

虎は満身に慓悍の氣が満ち充ちて居りますから一度咆哮すれば百獣悉く慴れ戰きますが慓悍の氣が溢れて居る丈けそれ丈け老練な猟師に取つては危機一髪の間に乘ず可き

▽◆機會が多いのです。例へば疾風の如く、人間に攻め寄る場合は、必ず三四間離れて踏止まり、朱盆の如き巨口を開いてウオーと唸る其時猟師は的を定めて口中に打込む、恁んな取つて付けた様な場合は極めて尠いが一度跳躍して再び敵を的ふ刹那ズドンと一發見舞ふ事などは老練な猟師に取つてはさう〳〵六ケ敷事ではありません。加藤清正は鎗で虎を斃したと言ふ事ですが

▽◆虎の性質として鉄砲すれば煙を望んで飛び躍り武器を見れば武器を噛み碎かうとしますから沈着で膂力さへあれば虎の田樂刺位ゐの事が剛勇無比の鬼將軍を俟たずとも吾々にも出來得る事と信じて居ります、現に北鮮には四尺位ゐの平槍を提げて虎狩に從事して居ますが彼等は二年に一頭位ひは斃しますし山刀を揮つて手負の虎と格闘したなど、言ふ話は吾々

▽◆猛獸狩に從事して居る者の常に耳にして居る處です。猛獸狩で最も所要なのは足痕に依つて虎の所在を突止める事です足痕は大抵、水邊の砂地か、木の葉の腐蝕した濕潤の土地か、或は猪が木の葉の中からドングリの實を掘出した後の軟かい土に印せられてあるのですが猟師は其足痕に依つて虎の大きさと其附近を彷徨した時刻と、通過した際の心理狀態とを察するのであります先づ

▽◆虎の大さを測るには虎の平靜の場合の一の足痕から三の足痕までの間隔で胴體の長さを見其足痕の直徑と一の足痕と二の足痕の間隔とを測つて虎が平靜であつたかどうかを驗べ次に足痕の新しいか舊いかに依つて今何里離れた嶺に彷徨して居るであらうと推測して直ちに追跡するのでありますが原始的の虎退治にも數理が應用されると聞いたら素人は首を傾けて『ナル程なあ』と感心するだらうと思ひますそれから

▽◆虎と豹とは極て似た動物ですが虎の足痕は牛の蹄程の直徑があり豹のは小さく、豹は犬の指の痕が小さくて猫の大きさと云ふ位いそして全體の直徑から言へば同じ三十貫の重量でも虎の足痕は四十五分で豹は三十五分位なりますから老練な猟師になつて居ります足痕を發見すると言ふ事は虎の所在を突止め得ると言ふ確信を與へらるゝ様な者で一度足痕が見つかつたならば犬が鋭敏な鼻に依つて兎を追蹤する様に山でも谷でも川でも猛進に追跡するのです

▽◆怎んな時はどんな嶮阻でも意に介しません、私などは馬山から正誠峰にかけて嶮山深谷を一日十數里以上も驅け廻つた事がありますが平地を歩くよりも愉快で疲れません、正誠峰の狩立で本田砲手の健脚に驚かされて居た記者は此時つく〴〵と脂肪分が解しきつた老砲手の瘦こけた顔を眺めて今更らに原始時代の人類の生活狀態を腦に描かずには居られなかつた

▽◆老砲手の話は淺々として盡きない時計は既に午前二時を指してY君とＳ君の夢は深く深山里の夜氣は沈々として德池江の流れは滅入る様な音を立てゝ居る、何處かで暗に[illegible]へた様な驢馬の鳴聲が聞ゆる。總ての物の音は泣きたくなる程物悲しいメロディをもつてゐる（完）

◎清會線開通式

北鮮國境に於ける空前の盛況

參列者五百餘名＝閉式後政務總監一行清津に向ふ

清會線開通式は既報の如く二十五日午後零時三十分より豆滿江畔會寧停車場の大倉庫に於て擧行されたり此の日天晴れたるも國境の朔風烈しく四圍の連山は白雪を戴けり式は久保滿鐵理事の式辭に始まり久門所長の工事報告、山縣政務總監の告示、張延吉道尹並びに桑原咸北道長官の祝辭あり終つて久保理事の式終了挨拶にて式を閉ぢ同五十分同室に於て食堂を開きたるが宴酣なる頃山縣政務總監は起つて天皇陛下の萬歲を奉唱し樂に和す午後一時三十分擬總を開く大れより陸意退散したり、山縣政務總監外滿津鐵南方面の來賓は午後二時五十分發列車にて淸津に

▲乘客積貨數（會寧特電）開通式當日會寧驛發淸津行第一列車の乘客は八百二十四名、貨物積載最七十三噸、同受付四百二十噸運輸收入約一千圓なり又淸津發第一列車の會寧下車客は二百七十五名（來賓を除く）にして開島行の開合せ尠多く是等は淸會線の開通を待ちたるものなり

申成商兩道長官、坂出技師外五百餘名北鮮國境に於ける空前の盛況なりし猶は停車場附近に於ける大綵門並に及び市民の設けたる大綵門並に滿鐵物等あり餝撤をなし汽車見物の內鮮人支那人夥しかりき（會寧特電）

◎剩す所僅に五日間

切迫して來た京城商議改選期

最早や剩す處僅かに五日間に迫つた京城商業會議所の評議員改選も其の期日が段々と切迫するに伴れて市中の選擧氣分が追々と濃厚の度を加へて來る、期日が近まるはどの候補も

▽どの候補も案外鳴を靜めて平靜の態を裝つて居たが十五日、十日、八日と其の運動期間が遠慮もなく短縮されて行くと誰なぞイの一番にわつとばかりに名乘りを揚げて

▽運動に著手すると彼方からも此方からも雨後の筍[illegible]

の其に似て瞬く間に早や評議員定數をずつと超過して仕舞つた有樣斯うなると孰れの候補も默つて尻を落ち付けてる譯にも行かず心中大いにやきもきしながら

▽知らぬ顏を人には見せつゝ表裏の活動を懸命におつ始める選擧有權者數は八百餘票で一級の如きは僅々二十票位だから自分の得票は極く少數で當選する譯であるが有權者の方が既に相當の知識階級だからそう容易く運動屋の口車には乘らない『私はもう誰某に定めて居ますので……』と

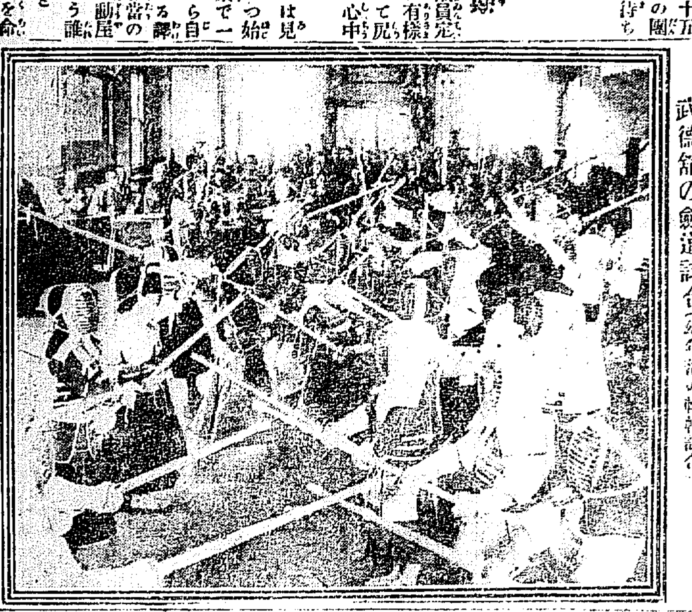
▽一擊の下に退却を命

▽選擧氣分が高調に達せられると云ふ要行き、少數で良い答の得票だが其れが案外難攻不落と來て居るので運動も仲々困難を感ずる。とは然る當事者の話であつた。孰れにしても昨今の京城市中は

▼選擧氣分が高調に達して居ると言つて宜からう、元來會議所評議員の選擧資格と云ふのは先般會議所で一般の縱覽に供した選擧人名簿に登錄せられて有つた會員のみで選擧人名簿に登錄されなかつた者は無論投票の資格は無いのである又被選擧人たる

▼資格としては法人又は年齡三十年以上の男子で而かも一年以上引續き京城商業會議所の會員たる資格を有して居るものに限られてある但し合名會社又は合資會社に在つては無限責任社員の全員、株式會社では取締役の總てが日本臣民でなければならないと言ふ

▼規則が有る之れに由つて愈々十二月一日になると元商業會議所の有つた學校組合が鑢場で選擧を執行せらるゝ筈で中原の鹿も結局誰れやらの手に歸趨する譯である



武德館の劍道試合（幼年部の輪轉試合）

◎花の如き少年少女の試合

武德館記念大會

黃金町武德部にては小春日和の二十五日午前十時より同館創立五週年記念劍道大會を擧行したるが參會者は同館門弟より京畿各警察憲兵專修學校、京城各監獄、軍司令部龍山聯隊その他各所より劍客多數にて

▲先づ第一に武德祭典あり次いで開會辭來賓の挨拶等ありて劍道の型より幼年部の試合等あり本等に續いて同型、幼年部の試合、輪轉試合、青年部の試合、居合、輪時試合等に至るまで相踵いで行はれしたるが宿の內側には一同觀樂を擅にし試合の內には幼年部の輪轉試合にて十六七才までの花の如き少女も交り居て

▲竹刀に雜刀に盛んに[illegible]躍した[illegible]の出るやうな勇ましさを見せたるが殊に幼年部の選手の者にて十六年以上四人五人[illegible]位といへど少年に四人五人或は十人近く一團となりて立向ひ[illegible]いづれも雄々しく倒れたるはその非凡の腕前[illegible]ものあり喝采を博したるが當日は日曜日なりし事と同館門生の父兄の見物頗る多く道場內は人を以て埋るの盛況なりき

◎鹿兒島市大火　二十四日午後十一時三十分鹿兒島市船津町下旅館より出火し六十戶燒失したり（鹿兒島特電）

◎奧村賭賻事件　京城奧村電氣商會の賭博事件につき支配人刑事取調を受く同店支配人前代議士加藤小太郎氏等取調べられたるが二十五日に至り河端、伏見兩署及び保安課の刑事全部召喚取調べを受けたり（大阪特電）

◎支那紙幣僞造　慶北安東郡[illegible]

◎國境[illegible]

◎賭博から殺人　[illegible]全州郡生れ崔敬烈（二三）の兩名は元義州郡[illegible]所[illegible]たる大野次郎の依賴を受け黑龍江省銀號小銀券を都方斧走中十月廿一日安東縣三道溝八丁目の路上に於て安東署の刑事に取押へられたるが崔は同夜巧に逃走し十圓の僞造銀券九百枚は同時に發見押收されたり[illegible]直ちに[illegible]中[illegible]の依賴により右の[illegible]等は[illegible]警察の手に押へられたり

[illegible]崔北面[illegible]兩名は十一月十二日同郡[illegible]氏方に[illegible]顚三[illegible]と[illegible]格闘をなし[illegible]られたるより[illegible]に[illegible]顚三を[illegible]以て[illegible]所持金を强奪して逃亡せしも犯人等は悉く[illegible]に逮捕されたり

◎生活難から　慶北[illegible]郡[illegible]架山面[illegible]洞金東殊の[illegible]は去る四月廿三日午前十時頃一子[illegible]を殺せしも[illegible]家計極めて貧しく[illegible]其の不在中に生活の困難を[illegible]死せしめたる後夫に對し[illegible]李は殺人として[illegible]地方法院[illegible]公判に附せらる

◎迷信から放火　京畿道[illegible]郡大阜面北里金永相（二[illegible]）は先頃妻が病死し次いで實母が又[illegible]して窮態に陷りたるより巫女を[illegible]て占はせしめたるに自宅より[illegible]に宿[illegible]ある建物を取除けば[illegible]を免るべしとのことを信じ[illegible]所在同里金[illegible]所有の觀水[illegible]に十一月廿日夜放火して全燒せしめたることが發覺し[illegible]仁川署に逮捕[illegible]

◎魚形水雷引渡　慶尚北[illegible]知道山神社に於て本月八日午後二時頃鯖網に掛りて引揚げられたる魚形水雷は其後官憲より鎮海要港部に引渡方交涉中の處去る十六日同部の驅逐艦朝霧現場に赴き引取りたり

◎大麻と暦本　京城に於ける神宮大麻は例年伊勢神宮神部署より京城神宮前谷村商氏に委囑し來れるが本年も既に大麻、暦本共數十萬個が著し居り追々歲末にも迫りたれば其筋の手續を終へ二十五日より各方面に向け每戶に頒布方開始の由尚ほ神社に到り受くることは各自の隨意なりと

◎日蓮宗本能寺布教所會式　京城觀水洞の日蓮宗本能寺布教所には宗祖[illegible]人の會式に付廿六日夜通夜をなし餘興として午後六時より[illegible]琵琶曲の演奏ある由曲目左の如し
▲備後三郎（蓬萊）▲楠中佐（淀泉）▲成田[illegible]▲乃木將軍（蓬萊）▲小松原（五稜旭疇師）

十二月一日より三日まで三日間（三階に於て）

よせぎれ見切反物

大賣出

京城　三越呉服店

日鮮會話精通

朝鮮總督府通譯官　西村眞太郎著

◎本月廿五日發行

菊判クロース美本　七百餘頁　定價金壹圓參拾錢

一、本書は凡そ朝鮮全般の事物を網羅し盡して收めたれば之を一つの國鮮語辭書として見る事を得べし

一、內鮮人を問はず通譯事務に從事する人の最新最好の參考書なり

一、本書は各學校の會話教材に最適當の事項を集めたり本書は各種講習會の良參考書たり

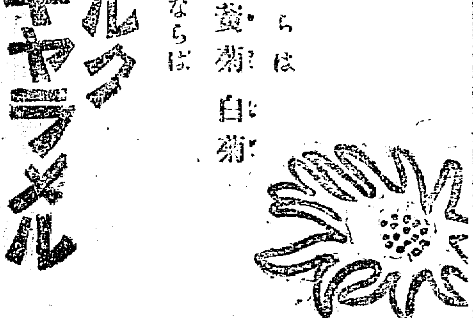
一、內鮮人に鮮語諺數百は著者新しき譯法を用ゐあれば一讀直に其の眞意を知りて實地に應用する事を得べし

一、一般に鮮語を解し得たりとするも其の智識のみにては甚だ覺束なきものならずや本書は貴重なる新鮮語を以て充滿せり

一、[illegible]に朝鮮語を研究せむとする人士あらば今一層確實に速に本書を購求せらるべし

發行所　京城大和町一丁目　振替京城三〇〇番　京城日報社代理部

特約店　京城本町二丁目　振替京城二四五四番　嚴松堂



祭り　菊ならば黄菊白菊　菓子ならば　森永ミルクキャラメル

6—37

平壤女子高等普通學校教諭正七位小松久夫儀出張中病氣に罹り大連滿鐵醫院に入院中の處本日午後三時十九分同院に於て死去致候此段急告候也

大正六年十一月廿四日

男　久麻呂

親族總代　上林幹夫

友人總代　齋藤欽二

てんかん　癲癇で時々ヒキツケ困る方切手二錢送れ永年の病も自宅でヒキツケに治療す事の書た詳しい本を無代進呈す　名古屋市南小川町一　教生舘

女店員入用　年齡十五六歲より二十四五歲迄　勤務階上陳列品監視午前九時より午後六時迄希望者來談保證人を要す　本町二　ちゃぶや　82

石油發動機賣物　廿五馬力石油發動機賣却す下名へ御照會下度候　京城吉野町一ノ九　末松義乘　78

募集　店員五名希望者本人來談　手代三名但四十歲以上にして地方は履歷書を要す　京城[illegible]地　大橋商店

藥局　諸大家處方箋責任調劑　良藥品有名賣藥販賣御注文品迅速配達　電話三一二七　京城本町通櫻井町入口　宮本千粒堂

番外　古本高價買受御報參上　明治町通　野村書店　電話三〇五〇番　7

用　藥局生壹名看護婦並に見習生入用希望者來談あれ　仁川　松本病院　81

看護婦又は經驗有見習二名募集す希望者は履歷書携帶來談あれ　仁川　井上病院　97

普通　小僧入用　年齡十五六歲にして希望者本人來談あれ　電話九三三番　本町一　赤帽子

京日案內　番外　一回前金（[illegible]）[illegible]

櫻御殿

大阪 霞の家主人

第七十七回 安藝の月（十七）

『わたしは死にます、満之亟様に見放されて、生きる天はございません、荒野どのに云つて來た譯もございます』

初瀬は齒を切つて云ふ、嘉市は慰めて

『まアお待ちなされ、あなたのお心通らぬもいふ筈はない、南宮山の麓に病んで、已に一命を失ふところ、あなたのお蔭で助かつた、いや、わしが助つたばかりで無く、御子様のお身を立つた、その御恩を報ふには、あなたのお心を[illegible]

[illegible]ひ御國の御行、御對面は協ひません[illegible]嘉市は[illegible]を放つて『それは御對面は協ひますまいが[illegible]見事に[illegible]引き取りなされませ』

與惣治は云ひ切つて部屋へ退た

『何う致しませう、あなたへも御對面は無いさうでござります』

初瀬はまた顔を掩ふて泣いた[illegible]おわたくし[illegible]心で[illegible]満之亟殿に逢ふのは[illegible]

之亟殿へお傳へ申すにある、今にも對面致すことが爲きたら、何はさて置き、あなたのお心を知らせ參らすでござらう、ま、お待ちなされ、満之亟殿これほど辛くなさるには、何か仔細があらうと存ずる』と痛んだ心を撫で擦るやうにする

『有難うございます、わたし心さへ通じたら、すぐ死んで闘ひきせぬが、此のまゝ死んでは後に念ひが殘ります』

初瀬は深く覺悟しながら、未練が殘らぬでは無かつた、將來長く添ひ遂げる望みは消ねても、此といふ仔細無く秋の扇と捨てられた恨みが一言述べて死にたかつた

『御門前の客人へ物申す』

與惣治は裡から聲掛けた、嘉市は『おゝ』と應じて云ふ

『折角の御入來ながら、夜中と云ふ、また機會があらうと存じます』

『それではわたくしも、再び助左衛門様のお前へ、恥しい態度をお見せ申さねばなりませぬか』

『大矢様のお智慧も借り、好い談合を致しませう、假へ時日は移れるとも報恩の爲めの心盡し、あなたのお望みはきつと協へてお見せ申します、まあ、大船に乘つた氣で、わたくしへお任せなされませ』と嘉市は親切を籠めて云ふ

初瀬は原一重を鐵の壁と見て、深い心を殘しながら助左衛門の邸へ歸る、美知姫の同情で御殿を出ると、すぐ助左衛門の邸へ來て、數日の宿を頼み込んだ

助左衛門は妻もあり、幼子もある、知行三百五十石、正則の近習を勤めて、上下の信用も淺くない

初瀬と満之亟との戀は、滿洲時代からよく知つて居る、妻のお淺は同情の深い身、女は女同士の親み好く、互に心を語り合ふので、心易く厄介になることが爲きた

助左衛門夫婦は、満之亟と初瀬の間に、死の傷しい花の香に包ませうとする、満之亟は[illegible]を向く、[illegible]大矢田家と[illegible]家との間に、幾度か使を重ねたが、[illegible]何の要領も得られぬので、その夜初瀬は心を決して、満之亟の邸を訪れた、後にお淺は日頃信ずる觀音菩薩を念じて

『どうぞ〳〵満之亟様のお心を解いて上げて下さりませ、お願ひ申ざります〳〵』と祈つて居た

その効も無く、初瀬は悄然と青い顔をして歸つて來た、お淺は縫もやらず待つて居たが、初瀬の襖を開くと共に出て來て

『それほどに務されても、御對面はござりませぬか』と我身の事のやうに悲み云つた

齒科診療 野田齒科醫院 本町一丁目三越向電話一〇四七番 齒科醫士 野田應治

帯 半ゑり 帯あげ 帯しめ 京城本町一丁目 ゑり治商店 電話[illegible] 年期刺繍弟子十五歳位の者募集

京都 たまや出張店 呉服 永樂町二丁目 電話一〇九六

日報俳壇

巴陵吟社詠草（[illegible]）

柿

雨柿に午後の陽が射す軒端哉

高照りす柿の小家や夕日影

山畑の柿に石打つ子供かな

軒下に柿吊り干せる小家哉

空氣銃の見え出來る柿の村

炊煙の空飛ぶ鳥や柿かな

柿の梢に眼覧しき在所哉

柿の樹に稲刈りする隣哉

累々と柿の熟れ居る畑に並べけり

熟柿に蜂の去來す畠哉

鷗鳴吟社詠草（[illegible]）

薄

古墳山に通ずる徑の薄哉 虎洞

曲湖に船入るゝ江の薄哉 同

海光る日暮の道は赤し 三笑

薄原に運動會の旗幟哉 蘇南

薄野の夕日に引かる内徒哉 淡水

秋晴

船飼す濱の入田や秋日和 虎洞

秋晴や戸毎の屋根や唐辛子 同

秋晴や鶴渡る江の深き空 默禪

秋晴の風を孕める白帆哉 三笑

秋晴の馬に鞭うつ家路哉 蘇南

藁草も刈る秋晴の畑かな 公林

◎金郡對座吟 [illegible]

新刊紹介

▲經世（一二七）十五錢 東京芝田村町六丁目[illegible]

▲帝國農會報（上の[illegible]）[illegible]

▲嗜好（[illegible]）[illegible]

▲隨闘集[illegible]

▲娛樂世界[illegible]

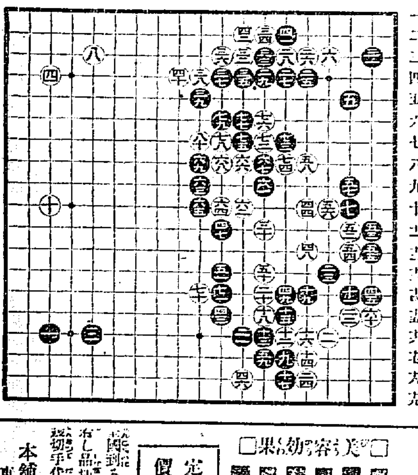
▲「少年」「少女」[illegible]

▲伊勢[illegible]

圍碁手合（四）

三段 山平壽氏　初段 先 松尾清太郎氏

黒（先）九の八（一六十一）より七の二（八十七）迄



◎大連米國航路 三井物産會社の傭船として大連より豆粕を滿載して北米沙市へ航行しつゝある[illegible]より鐵石油雜貨等を満載して歸途横濱に寄港し揚げ殘りの荷物を神戸に揚陸し同港よりは空船にて大連へ入港するが此一往復約六十三日を要し[illegible]

[illegible]市有棧橋の收入增加して二分の配[illegible]きことゝなりと松本一等運轉士は語れり（大連）

◎最近大豆市場 [illegible]に於て十萬噸を超ゆるなどの事あり爲に相場は漸落し五圓となり遂に四圓臺とも割の慘況を見るに至りたるが從つて東京豆粕の如き[illegible]は二割[illegible]ける作柄は昨年に比して[illegible]兩者合計は昨年の兩者合計に比して[illegible]自然市價勢を迎ふるものと察せらる[illegible]

天下一品 濃厚白味劑 家庭化粧料の元祖！ 大、中瓶は、一家庭高雅なる御贈物に好適なり

色白く肌アレを防ぎ素顔の美人となる

ホーカー液

一滴づゝ

□美容的效果□ 色を白くし、きめを細かにし／アレを防ぎ、色艶を好くし／白粉下、トキ水によく／子供衆の皮膚を丈夫にし／生れつき色が白い樣に見せ／紳士の髭そり後に適す

定價 大瓶八十錢 中瓶四十錢 小瓶二十錢 送料 內地[illegible]

全國到る處の小間物化粧品店、藥店に販賣す 若し品切れの節は本舖宛直接振替又は郵便切手代用にて御注文を乞ふ

本舖 東京神田 堀越嘉太郎商店 電話[illegible]

東洋信託保證取引所株式募集廣告

上海取引所株の提供

[illegible]は支那に於て左記三大事業の[illegible]

◎業務及特權

一 上海取引所 [illegible]各國證券、保管、金銀塊、絲綿、棉花、牛皮、茶[illegible]我東京、横濱、大阪、[illegible]必要缺くべからざる[illegible]現在の輸出入貿易の取引[illegible]各國證券並に各種商品の取引[illegible]收入の六割以上を算するも本[illegible]會社の利益として計上し得べく現[illegible]前期四十六割の利益を擧げつゝあるに徴[illegible]

二 無制限債券發行の特權 會社は債券發行の特權を有するより生ずる利益も亦莫大なり

三 信託と保證 廣く内外の資本家より一定の手數料を徴し各種の事業に對し信託保證の業務を營むものなり[illegible]之を以て[illegible]第十一條を改正すること[illegible]逐次業務を擴張するものとす[illegible]經營の最大取引所と聯立して世界[illegible]漢口が南支商貿の中心集散地たるあり天津は北支の咽喉たり倶に共に將來の大市場[illegible]事業の膨脹力急速無限なるを證すべく保證の業務に至りては我國に於ては全く新機軸[illegible]叙上の理由に因り本會社が純益年八割を想定せるは最も穩かなる[illegible]ものなり茲に四萬株を日本內地及び朝鮮、滿洲、支那の各地に於て左記要項に[illegible]

募集要項

一 資本金額 金貳千萬圓（總株數四拾萬株の中貳拾萬株は適當の時機に於て適當の方法を撰び會社之を處分すべし）

一 募集金額 金貳百萬圓

一 募集株數 四萬株（壹株の金額五拾圓）

一 第壹回拂込金 壹株に付金五圓

一 申込價額 額面超過金參拾圓以上（額面超過金額のみを記す 單位は圓位とす）

一 申込期間 大正六年十一月二十日より十一月二十八日迄

一 申込證據金 壹株に付金五圓

一 申込株數單位 拾株

一 募入決定方法 申込價格の最高より順次募入し價額同等のものは按分比例に依る

一 第壹回拂込期間 大正六年十二月十七日より十二月二十日迄

一 超過金額拂込期間 大正六年十二月十七日より十二月二十日迄（壹株に付申込證據金五圓は金額中に振替充當す）

右株式募集に付御希望の方は目論見書、定款、說明書及株式申込證等左記取扱所並に各地株式仲買商店、株式現物商店等に就き御請求相成度候

大正六年十一月

東京市京橋區築地精養軒內

株式會社 東洋信託保證取引所

營業開始準備委員長 肥田景之

委員（イロハ順） 今西林三郎 吉村鐵之助 傳[illegible] 村原榮三郎 伊藤長藏

發起人（イロハ順） 渡邊藤吉 曾根正命 二川茂助 澤井定七 土方久元伯

林有造 竹內綱 安藤竹次郎 外拾五名 長丸鐵太郎 尾澤琢郎 飯川豐治 渡邊要夫 小林勝民 柵瀨軍之佐 關谷兵助

戸水寛人 坪田十郎 佐分三之丞 富田幸次郎 岡部長職子 横山一平 山口達太郎 小寺成藏 木下謙次郎 外數百名

小野金六 山科禮藏 水野富郎 根本正 大津淳一郎 田丸稅稔 山下秀實 小泉又次郎 光永星郎

若尾幾八 藤井忠兵衛 朱森三 大谷嘉兵衛 大竹貫一 田邊七六 前川太兵衛 安部幸兵衛

申込及拂込取扱所

東京 川崎銀行
同 丁酉銀行
同 八十四銀行
同 浪速銀行東京支店
同 浪速銀行東京蠣殻町支店
同 當會社營業開始準備事務所
横濱 第二銀行
横濱 茂木銀行
同 左右田銀行
同 横濱七十四銀行
大阪 浪速銀行
同 三十四銀行
名古屋 明治銀行
同 名古屋銀行
名古屋 愛知銀行
神戸 第六十五銀行
同 岸本銀行
京城 京城銀行
同 十八銀行京城支店
仁川 十八銀行仁川支店

東京、横濱、名古屋、大阪、神戸其他の株式仲買商店又は株式現物商店に取扱方依賴致置候に付御便宜御申込被下度候